資　料

清水安三初期文選（上）

――1917年～1921年――

金　丸　裕　一

はしがき

第一次世界大戦参戦によって，極東におけるドイツのショーウィンドーと称された青島の攻略（1914年11月），ついで南洋群島の占領（1914年12月）へと勢いづいた日本は，直後より未曽有の「成金時代」にも湧く。かかる時代的雰囲気の中で同志社神学校を卒業し，待望された旧制中学以来の古巣たる近江ミッションへの進路を棄てて大阪に本部を置く日本組合基督教会の実質的機関誌『基督教世界』の編集に携わりながら，みずからの将来をひたすら模索する青年がいた。それが，若き日の清水安三である。

彼は1930年代半ば以降，『姑娘の父母―崇貞ローマンス』（改造社，1939年3月）や『朝陽門外』（朝日新聞社，1939年4月）など数多くの「自叙伝」的な作品を執筆した。それらのなかで1917年の奉天赴任以来の様々なできごとが独特の語り口で披露されており，後の研究者たちは「自叙伝」群に依拠した歴史を構築してしまったのではないか。特に，1920年代前半以来，清水は北京において「崇貞女学校」という現地人を対象とした教育活動に取り組み，これが敗戦に至るまで継続・発展したため，戦時下の「良心」として広く江湖に知られる存在となる。引揚後に東京郊外の町田において桜美林学園を創立し，こんにちの総合大学の礎を築いた人物であることについては，多くを紹介するまでもなかろう。

そうした清水安三ではあるが，実は1917年の奉天赴任から1924年に米国留学へと出発する期間，すなわち初期大陸時代の活動をめぐる史料について，いまなお発掘と分析を要する段階に位置すると思量される。なぜならそれらは，公共図書館や大学図書館における閲覧が極めて煩雑であるけれども，後の「自叙伝」を精読するだけではイメージできない原初的清水像の宝庫というべき史料群だからである。したがって本稿は，これまでの調査を経て入手したテキストを翻刻して，同時代における記録を広く学界に紹介・提供することを，唯一の目的としている。

歴史学や歴史神学の場合，フィクションの上に議論は成立しない。以下に紹介する諸史料には相互に矛盾する如き叙述があるやもしれぬが，それらを前提として清水安三像が考察されることにより，激動の時代に渦巻く人間関係（清水の場合には神との関係も含めて）の交差する「現場」における人物像が，静的構造的なものではなく動的形成史的なダイナミズムをともない眼前に浮かび上がってくるだろう。

凡　　例

1．「清水安三初期文選」（上）では，1917年から1921年に執筆された本人署名に係る史料を収録したが，本人以外の執筆に係る重要な文献についても，冒頭に※を附した上で採用した。
2．配列は，発表年月日に従う昇順とした。刊行年の横に附す年齢は，当該年の誕生日（6月1日）を基準とした満年齢を示す。
3．著者名，タイトル，掲載書誌情報，刊行年月日，掲載ページ数を記した。
4．原文で用いられる正字（旧字体）は，常用漢字に置換した。また，誤字・誤植や脱字等は訂正せず「ママ」のルビを附し，判読困難な箇所は記号□□を用いて示した。
5．句読点を補った部分については，括弧［　］を用いて明示してある。
6．テキスト選定について，公共図書館での収集と閲覧が困難と判断した文献を優先して採用した。

※　※

本　　文

〈1917年〉26歳

清水安三「故国の友に与へて」（『湖畔之聲』第57号，1917年7月5日）4頁。

神は余をして，僅かに湖声誌を介してのみ，近江伝道に指を染めしめ給ふに至りぬ，余が近江の為めに，献身せしは，今を去る七年の昔なりき，然るに此度余は大命を帯て支那宣教の難に当るに決したり。よしや身は万里を距つとも，余が切なる祈禱は「愛する近江の救はれむことなり。パウロが異邦人伝道の苦難と十字架とを負ひて伝道せしは，エルサレムの救はれも為めなりき。余が異郷に在つて，孤軍奮闘，泣きつ，苦しみつ，病みつ宣教せるは，聞えて，郷人の伝道心の燃料たらむことなり。余は今より三十年を支那の豚胡家に生きて，將に円熟大人格となりて後，満場一致双手を挙げて近江に帰らむことを勧言決議せられむ日のみ夢み居れり噫。支那に着，早々感じた事はヴォリス先生を始め，多くの米人宣教師に対して，何せもつと余は同情し，慰めざりしかといふ後悔なりき。生活程度の差異ある不潔にして，陋習なる巷街を歩めば，そゞろ米人教師の心情の程，我身に当てゝ察せられたり，一種の悪嗅一種の軽蔑の感ぜざらむとするも，嗅く思はざらむと欲するも禁ずる能はず，今にして初めて，宣教者の古今の偉雄を偲んで其心事を知り申しぬ。奉天は黄塵逆捲きて，蒙古より荒々しく毎日襲ふ大陸颶風は黄砂を含んで奉天城の内外に荒狂ひ，為めに天日暗くして，開眼徒歩に苦しみ，女はベールをおこそ頭巾にし男子は口と目に口眼鏡を掛け，邦人にては，馬車力車を駆り居り，而も交通機関は，一つのガタ馬車あるのみにして道路極めて，悪ければ，雨の日は膝を泥中に投げ入る，有様にして，思へば思ふ程今更らに日本恋しう思はる，而して大連の如きと異り支那の権力の中心地なれば邦語を知るの支

那人少く，力車を駆るにもなかなかの骨なりといふべく，凡そ言語通ぜざる位淋しきもの非じと思ひぬ。来たりて住む邦人といへば殆んど金の問題を頭に有するものなれば箸や棒に懸るもの少く，之に接せる支那人の日本人に対する感情は甚だ穏かならざる様子なり，茲に抑も根拠して，愛を説き，道を教へるの難，甚だ以て尋常に非ずと覚悟致し，今はそも，絶望の淵に沈まむとしつゝあるの感ありて，一段の信仰を要すると感じ居れり。

人は抑も十字架を負ひに来りしもの，何ぞそれを悲しみ申さむ，ジヤドソンはビルマの伝道の為めに屢々死の苦に逢はむとし，リビングストーンは幾度か虎獅の餌となりそこね，パウロは囚れ又，鞭たれしものを，独り支那伝道のみが易々たる坦途を歩みえんやと考ふさればとて，実際人の破目に入れば今更の感ありといひ申さむ。余が大嫌ひの暑さは満洲に酷烈にして，隆暑今日に早や九十八度，夜は三十何度といふものなり，冬の満洲は想ふも激甚なり，されど余は屈せず撓まずテクテクと黄塵の中を伝道せむと心定めぬ，満洲は春以来雨を見ず未曽有の旱魃，眞夏今日田畑，枯色，秋冬に似て，不毛の有様飢饉，さては馬賊の蜂起を思ふて人心恟々たり，家々軒に水桶を出し柳楊を立て，龍宮に雨を乞ひを致し居れり。噫，余は，馬賊の為めに幸に死せむか，如何に主の聖栄を彰して餘りあると思ひ居れり，故郷なる兄姉幸に益々伝道心を盛んにし，洋人の心情を思ふて，一大活動の輔佐せられむことを望んで止まず，幸に安かれ。

※牧野虎次「満蒙紀行（上）」（『基督教世界』第1761号，1917年7月5日）8頁。

◎奉天の一日

奉天に於る一日（十四日）は海老名，渡瀬両牧師と行動を倶にして，尤も多忙なりき。先づ朝は満鉄経営の小学校医学校，病院を巡視し，正午総領事館に到り，赤塚領事が一行の為に特に設けられたる盛宴の饗を受け，夫れより張督軍を訪ね，日本赤十字病院を視，午後四時より奉天に於る基督教主義の教育機関中の重鎮たる文会書院（奉天カレッヂ）校長ミスケシイ氏宅に於る歓迎会に臨む。神道学校長フルトン博士始めイングリス教授等数名来会せらる。孰れの処にても我組合教会の満洲伝道開始を述べ，第一の伝道者たる清水安三氏を紹介し諸氏の歓迎を受けたり。同夕満鉄クラブにて渡瀬，海老名両牧師の講演ありし節にも司会者大塚素氏によりて，清水氏は約三百名の来会者に紹介せられたりき。

◎奉天伝道の開始

奉天に於る我組合教会の伝道は，赤十字社病院々長小川勇氏（福岡教会員）を始め満鉄医学堂武術教師千頭氏夫妻（土佐教会員）及び奉天商埠局員井上初之助氏（元本郷教会員）満鉄社員福田稔氏（元京都教会員）等を中心として開始することゝなれり。主任伝道者たる清水安三氏は，小川院長の宿舎に寄寓して，専ら諸準備に当られつゝあり。ことに井上初之助氏は予て支那人伝道を志されつゝありしが，今回母教会たる組合教会が，支那人伝道を開始するに際し，万事を抛つて支那人伝道に尽力せらるゝに至りしは，頗る人意を強ふするに足るなり。

幸いにして諸氏の尽力と斡旋によりて，日本総領事館前にある，洋館建ちの広壮なる家屋敷（奉天商埠局の所有にかゝる）を借ることゝなり，こゝに奉天伝道を開始するに至りしは，上天父と下同志とに対して感激措く能はざる処なり。

※「奉天通信」「奉天通信」（『基督教世界』第1764号，1917年7月26日）12頁。

瀋陽基督教会　海老名，牧野，渡瀬諸師来奉以来，着々準備中たりし，組合教会奉天伝道は，様々なる天恩下に漸く講義所設立の運に到れり。山下永幸（奉天日基教会創立有志者の一人）井上初之助（同教会長老）両氏家族は愈々奉天日基教会より当教会に転入せらるるに決し七月十五日夕，創立相談会を開催したり。当夕，熱烈なる祈禱会の後，教育設備，経常費，定期集会，役員等を議定し，役員は千頭直之，小川勇，山下永幸，井上初之助，福田稔の諸氏を以て創立委員となし，井上氏を日曜学校校長，千頭山下両氏会計庶務を担当せらるゝに決し，来る二十二日午後，満鉄沿線，組合教会員，及当地日基教会員を招待して，伝道披露会を開催し，二十九日より定期集会を開催するに決せり。名称を奉天の別名瀋陽を称し，「組合」といふは支那語に通ぜざるを以て，後日，会衆，聯合，自治等称する方宜からむとの議ありて，教会看板には畧して瀋陽基督教会と書（支那人揮毫）せり，

同日曜学校　年来奉天日基教会は，城内井上初之助氏邸に於て日曜学校を開校せしが，今回教師生徒共に之を譲与せらるることと成り，更に長椅子六脚［,］幕一張，讃美歌掲示機一個，黒板三個［,］オルガン一台，其他を寄附せらるゝに決し，教会員一同其厚意を感謝し居れり。去月召天せられし，山下氏令兄寛氏の紀念の為，子供館を日曜学校附属事業として寄附せられ，広壮なる洋館の樹陰豊かなる（満洲にては樹陰は何ものよりもの慰安なり）庭園にぶらんこ，遊圓木，金棒，滑り台，其他の運動器具を備付け，家鴿二十四羽を飼ひて児童の慰安に供し，洋室六個の館内の一部に，児童遊戯室を設けて，輪投げ，闘球板ピンポン，其他の遊戯品を揃へ，更に児童に関する人人及子供の図書室を設け，来二十二日には凡て完成せらるべし。既に井上氏邸の日曜学校には，支那人児童十数名来校して，井上氏は支那語を以て讃美歌を歌ひ，片仮名を教へ，子供説教をせらる。邦人小児も十数□来校して，山下夫人，黒澤姉は井上氏を輔佐して教鞭を執らる。子供館開館せば，日曜学校の発展必ず見るべきもの在るべし。

同教会堂　洋館の最も大なる室に，長椅子十脚，講壇を設け，以て五十名の会衆を容るに足るべし。目下清水安三氏は，最も小さなる室に畳を敷きて住し，其隣室には支那人医学生五名合宿し，内三名は奉天城内のものなるも，日本語に熟達せん為めに来宿し，毎夕清水氏より基督教を談笑の中に聴きつゝあり，当地求道者少からず。

「校友通信」（『同志社時報』第145号，1917年8月1日）10〜11頁。

拝啓　一年有半の兵営生活は鍛錬と忍耐雑多の恵賜を供し申候。而して艱苦の生活に一日の慰労休暇をも自ら与へずして満洲に向ひ申候。赴任の途に一快一哀を感じ申候。母校校友の各地に於ける奮闘を見ては今更快然たらざるを不得候。心して見ざるべし，勉めて偲ばぬ，と心定めしも各地に日清日露の戦跡を見せつけられて，惨を偲び，酷を懐はしめ，遂に使命を国際的に考へ，空想して世界の平和を想はしめ申候。悲喜交々胸に迫り道中甚だ面白く候ひき。十四日海老名先生等と共に，奉天に督軍張作霖を訪ひ［,］あまりに優しい然しスマートらしき風貌に接して人物の必ずしも風丰に依らざるを知りて自重致申候。当地は黄塵逆巻きて為めに天日暗く，開眼徒歩に之堪えず，一歩を街路に歩めば靴鞋忽ちにして褐色に変じ申候。言語不通，往来不潔，偶々城内邦人に会せば何んとなく心強く候。此所に奮闘せんには余程の健康を要し候。肺を患ふもの多く，小児は育ち難しと聞き申候。洋人三十幾星霜宣教して今や大教会四ヶ所，伝道所数ヶ所有

之，工業学校，神道学校，医学校等有之申候。而して伝道甚だ奮はざるに似て小生の如きが如何に祈るも藻掻くも三十年十名の信徒を得るに満足すべきと想はれ申候。深思せば絶望，浅慮せば落胆の感少々有之候へ共［,］肺臓一ぱいに黄塵の溜るまでは死せじと心決め申候。噫そも何れの日に同志社の生れ申候や，母校の発展を切に祈り申候。不儘。

※「奉天通信」（『基督教世界』第1765号，1917年8月2日）12頁。

●日本組合瀋陽教会

当務会（ママ）は七月二十二日午後三時，教会堂に於て，支那伝道を主とせる伝道開始式を挙行せり。当日既に児童館の設備成りて，日支児童群りて余念なく遊び居れり。司会者山下永幸氏は，多年の宿望の達せられしを感謝し，日支伝道の重且大なる使命を全ふし，内地に在る多くの同情者の意図を満足せしめ給はらむことを開会に祈り，井上初之助氏は教会設立経過報告を朗読せられ［,］清水安三氏は来賓兄姉に従来の恩顧を感謝し将来の指導応援を乞ひ，特に当地日基教会並に牧師，岡崎長老，柏木遼陽教会牧師，其他の祝辞演説ありて，後一同写真を撮影し懇談会に移り，小川氏挨拶せられて茶菓を喫し，談笑裡に将来両教会の協同一致を誓ふて五時散会せり，来会者三十名，祝電祝文多かりき

因に当協会定期集会左の如し

日曜日

午前八時―九時	支那人日曜学校
午前九時―十時	日本人日曜学校
午前十時―十一時半	日本人礼拝
正午十二時―一時半	支那人礼拝（通訳付）
午後八時半	聖書研究懇話会

金曜日祈禱会は家庭廻りと決定せり。

※「奉天瀋陽教会」（『基督教世界』第1767号，1917年8月16日）14頁。

組合教会は，奉天に於て第一回目の聖日を七月二十九日に迎へ，組合教会の支那人伝道の，永遠に記念すべき聖日であつた。当日正午より清水安三氏は九名の支那人学生及青年紳士に，李徳権氏の通訳を以て説教し，『余は基督教が，支那民族の風俗，教育，宗教の欠陥を補ひ，之を破壊するに非して成就するものである。而して諸君は耶蘇教によりて，個人の自覚を根本的に得て，民主国の宝を完ふせられんことを望む』云々と述べた。当日邦人礼拝は十六名（求道者十名）夕懇話会八名であつた。日曜学校は邦人生徒三十六名あり又支那人日曜学校には生徒二十名余来つたが井上氏欠席の為休校して，カードを渡して帰した。奉天人士，求道の志旺盛にして，当教会を歓迎するもの多し，信徒各自炎暑を冒して，訪問伝道し，或は支那讃美歌を練習，後日に備へつゝあるの状勢である。

※「奉天通信」（『基督教世界』第1768号，1917年8月23日）12～13頁。

▼瀋陽基督教会　邦人清水安三氏の住する所八月五日正午の礼拝には支那人十七名来会し支那人信者祈禱し，李氏の通訳にて「天国在裏頭」と題して説教せり，午後一時半よりの日曜学校には

十二名の支那人生徒来会［,］井上校長より教へられたり。熱烈に求道する学生あり。午前十時より開催せる邦人礼拝は十七名の来会者あり。「先覚者の孤独」と題して清水安三氏説教せり，因に当日夜の講話会には十一名の来会者あり邦人日曜学校には二十四名の生徒出席せり，当日大陸日日新聞社は清水氏を招きて社員講話会を開催せむとしつゝあり，教会の発展頗る有望なりと。

〈1918年〉27歳

※「奇怪を極めたる同志社紛擾事件の真相」（『新京都』第8巻第7号，1918年7月1日）57～58頁。

（前略）原田，高木の両人は一日大阪なる高木邸に会して学生煽動策を定めた。其夜原田氏は高木氏邸に宿泊して，寝床の中で尚娓々として方策を講じた。夫は先づ神学部を騒がす事であつた。吾人が如何にして此寝室の秘語を知り得たるか。之を語らば読者は「天知る，地知る，我知る，子知る」との震揚四知の言眞に我を欺かざるを悟りて覚ず粛然襟を正すであらう。彼等が謀計を議し居たる隣室には偶ま満洲より来つて東京の組合教会総会に臨みたる奉天教会の牧師清水安三君，並びに大連教会の牧師磯部敏郎君が泊めて貰つて居た［。］二君は彼等両人の語る処を聞き知つたのである。而も清水君は往年日野神学部教頭に洋行を阻止されたと云が如き感を懐て日野氏に対する好感乏しく，磯部君も牧野氏に大した好意を有せざる者であつたので，知て知らざる風をして満洲に帰つて仕舞つたのである。後ち牧野氏が組合教会幹事として満韓を巡廻し奉天に至り，清水君に会したる際，清水君は告ぐるに此事を以てしたので此秘密は悉く明らかになつて仕舞つた，予輩は此事を斯く明確に記載するに当り，清水君に対して稍々気の毒の感を懐くものである。君は或は之が為に爾後，一種の迫害を或方面から受くるかも知れない。而れども君は曾は身に一劔を帯びて一朝君国に事あるの日には祖国の為めに殉ずるの覚悟ある陸軍将校であつた。君の心中にはこの武人魂が今猶ほ磅礴して居る事を信ずる。君の精神意気は必や正義の道に邁往勇進して，精神界にも勇者たるの体面を発揮せらるゝ事と思ふ。（後略）

清水安三「雑誌『新京都』七月号を読みて冤を雪がむ為めに弁明す」（『同志社時報』第157号，1918年10月1日）10頁。

『新京都』七月号に記載せる予に関する記事の真偽を問ふもの多く個々回答するに煩わしく，又事，他者と同志社に累を及すの恐なしとせず，遂に時報誌面を借りて冤を雪ぎて大方諸友に弁明せむとす。

『新京都』七月号誌上第五十七，八頁に見ゆる記事中予が日野先生に何か怨を抱ける如くあり，是れ全然誤謬に属するもの也，予は同先生に洋行を阻止せられしこと無し，只大正四年四月同志社神学部教授は予が洋行希望に対して，二年間実地伝道後に延期すべく勧告せる事実あるのみ。

予が高木貞衛氏邸に泊りて，高木，原田両氏会談の同志社に関する何事かを聞き，牧野虎次氏に告げしといふ記事あり，予は茲に明かに『聞きもせざれば告げもせぬ』と正直に弁ぜむとす，これは牧野虎次氏に未だ一言記事の出所を問はずして，断言するを得る也。

終に際して異郷の空，先輩と離れて遠く教友と国を異にし，孤軍奮闘，老大国教界開拓を任ぜる予が使命の為めに朝夕御加禱を乞ひて，徒に煩累を及すなからんことを望む。

〈1919年〉28歳

清水安三「支那生活の批判」（『我等』第1巻第6号，1919年5月1日）28～33頁。

本論の筆者清水安三氏は，三年前支那人に対して基督教を伝道する唯一の邦人として同国に渡つて，以来各地に宣伝に従ひ，傍ら支那事情の研究に没頭してゐる篤志家である。（記者附記）

一

支那は傲慢なヨーロツパ人の見るやうに，未開な野蛮ではない。正義を虚礼にし，人道を形式化する程に，文明を通り過ぎてゐる。支那人は気早な日本人の批判するやうに，過去の文明人ではない。或は過去の国民であるかも知れぬが，決して過去の人間ではない。彼等には現代文明よりか先を越した思切つた若々しさがある。

支那人は今頃人種差別問題に絡まつてはゐない。疾うの昔から，民族人種差別根性から超脱して居る。南支の開埠市に，毛色の変つた生活を営んだ西域アラビア人は，今は猪豚を嗜まぬ外には，支那人と寸分変らぬ。彼の猶太人でさへも，支那に移住したものは，膚色までも塗り変へてゐる。猶太建国の噂が実現してる今日，支那の猶太人だけは，帰ることも能きぬ迄に，支那人に成り切つてゐる。支那は紺屋の藍壺であるかのやうに，古くは苗族も，韃靼も，蒙古も，満洲も，この藍壺に飛び込んで，支那色に染まつてしまつた。現に半島を逃げる鮮人は，蒙満（ママ）で自由に染まりつゝある。

日本が人種差別撤廃を主張する限り，台，鮮，支人に対する自分の態度を反省し改革するを要する。そこに生活程度の高い民族が，より低い生活程度の民族から飲ませらるゝ苦い盃がある［。］漢人は幾度かその盃を飲み干した。荒々しい未開の夷狄から文明生活を脅かされまいと願つた間は，万里の長城も，以夷制狄の術も必要だつた。けれども，よしや無理強いに仕向られたにもせよ，漢人は幾つもの夷狄に門戸を開放した。漢人の文明は幸にも夷狄に共鳴するものであつた為め，一且（ママ）災ひされた漢人の文明生活は，夷狄との協力で恢復された。恢復し切つた時には，もう既に，漢人と夷狄との区分はつかないで，漢人夷狄といふよりか，支那人と称するのが穏当であるかのやうになつてゐた。若しか日本人だの支那人だの英米人だのと区別能きないで，世界人といふよりか言ひやうがない時代が到来すると想像せば，世界人といふ言葉は，支那に在つて，支那人といふ言葉と同種同類であるのだ。支那人の生活程度が今に尚低いのも，労働力が優つてゐるのも，幾度か夷狄と同等の位置に立つたことに基因してゐる。米人が黄色労働者と平等的立場を取つた為めに，クリスマスとイースターだけ七面鳥を煮て，平日は麦飯に沢庵で気を充たすに過ぎないとせば，如何に猛烈な人道主義の実現であらう。現に支那人は贅沢な支那料理を，正月と盂蘭盆の外は口に入れることが能きないで，一日十銭の饅頭に生葱を以て満足してゐる。人間平等の成行は悩みがあるけれども，それはにゅヒユーマニストである限り，飲むべき盃であらねばなるまい。兎も角も支那人には，異民族根性人種差別心は殆んど消えて行つたのであつたが，極めて最近，夷狄が新らしく現れて，根性心を啄き唆つた。甦つた民族的根性は，支那人全体を自分として，日本人も西洋人も夷狄の種類に数へるやうになつた。けれども，それは只の机上の夷狄であつて，多数の支那人は，今も尚民族的愛着心に無関心である。漢人は蒙古人をより愛して，日本人をより疎んずるやうなことはない。依然として支那人といふ名称は，世界人といふ言葉と同種同意に似てゐる。

由来支那は夷狄から見た国家であつて，支那自から見れば一世界に過ぎぬ。故に敗北の歴史は国際的でなくつて，内輪揉めの歴史であつた。然るに極めて近世，朝鮮も自分の領土でなくして，日本も琉球も属国ではなく，支那はそれ自身一世界であり乍ら，他の世界と対立すべき破目に陥つた。斯くてもう一度支那は，夷狄から一国として待遇せられることになつた。日清役を遼東と日本との戦争と思つてゐる支那は，今やこの大きい図体を提げて何とかせねばならなくなつた。

しかし支那を国家として意気巻いてゐるものは，極めて僅少な論客の仕事で，大多数の支那人は国家に無関心である。国域は剣に依つてどうにかなると思ふよりも，安価な労銀と低い生活質で，何処にでも活きてゐられると思つてゐる。

二

支那は少数の「馬鹿の論客」と「怜悧な民衆」の多数から成立つてゐる。

「馬鹿の論客」は泥棒を前にして，親子が口論をやつてゐる。支配する能力を打忘れて，支配する方法を論駁してゐる。南北の分争は新旧両思想の衝突で，旧るい頭の親は北方で，新らしい思想の子は南方に似てゐる。日本では攘夷開国両党ともに外国に対する問題に関して，日本を思ふ点に於て意見の一致を見たが，支那では泥棒と組打つ以上に，親子の口論を要する。そこに「馬鹿の論客」さがある。孔子も諸子も百家も，この「馬鹿の論客」であつて，草食を以て甘んじて，政論をやつたのである。「念書人」と称する一階級では，今も昔からの伝来を承けてやつてる。「馬鹿の論客」には，自己の血を以て仕遂げずば止まぬ積極的な熱がないが，志を成すを得ずば退くといふ消極的な熱があつた。その熱が伯夷叔齊を餓死せしめ，その熱が孔夫子を田舎に葬つた。支那では多数決の議決は成り立たぬ。否，成り立つても，全会一致の議決と同じである。自分の志が徹らない時は，即ち少数派は，身を退き桂冠するから，廟堂に立つか，退くかになつて，在野党の心持ちが解らない。

けれども支那を指導したものは，この馬鹿の論客である。古いことは勿論，革命もこの「馬鹿の論客」が永い間の亡命の処を，武昌の武人に援けられたことが始まりである。恁うなると馬鹿にならぬやうでもある。

「怜悧な民衆」は，国家と国域と民族に愛着する以上に，自己の幸福と安全と生存とを大切にしてゐる。統一する権威が何処にあらうと，全く無関心である。要は自己を安全に保護するものであれば足りる。「馬鹿の論客」の自己の物質的幸福を追求する心を皮一枚剥げば，矢張同じ「怜悧な民衆」の心である。孔子さへ顔回の為めに，自分の車を売らなかつた心がこびりついてゐたではないか。支那に愛着して熱涙を流す現代支那の南北政客も，賄賂の前にたぢたぢではないか。多くの支那通は馬鹿の論客を見て支那を論じる。しかし，「怜悧な民衆」は真相の支那である。

「怜悧な民衆」は絶対に平和を愛する。白楽天の折臂翁の歌や宋襄の仁を担ぐまでもなく，南北戦争が白兵戦に依つて戦線が移動しなかつたことに依つても解かる。「怜悧な民衆」が平和を愛することは，国家としての支那人の弱味である。けれどもこの弱味は少しの痛手ではない。彼等は安物でふくれる胃袋と，牛馬のやうな労働力を有つてゐる。競争ならば一人一人で勝負しやうと構へてゐる。労働から遠かつた羅馬は亡びた。民族人種差別撤廃は支那人の為めに，最も幸福であるらしい。日本の支那通は，支那人を利己一天張のやうに云つたが，支那人は日本人などよりか，幾層か親切で正直で利他である。彼等は只国家と統一者とに対して利己であるのだ。人

間として仁義に富んでゐても，国民として利己であるのだらう。そこに商人としての信用があり，官吏としての収賄者となるのであると思ふ。

三

支那は土の海原である。視野の届く限り，坦々たる平原である。雲か山か呉か越か，地と天と髣髴とした大陸である。起伏する山系も，万里の長城も，大和田の男波女波に過ぎぬ。そこに支那には広さがある。

支那は一夜造ではない。五千年の歴史が纏い付てゐる。哲学もあり，ナポレオンの上手も出て，欧洲戦争の真似も二千年前にやつた。矢鱈に古い歴史がある。そこに支那の時間から見た「長さ」がある。

この「広さ」の為めに支那は，大男知恵が総身に廻り兼ねてる所があり，「長さ」の為めに伝統因習の悩みがある。

「広さ」は泥水の白河も，濁流の黄河も，呑み了せるだけの広い度胸がある如く，雑多の両極端を住まはせてゐる。去年緞子を纏うて阿片を吹かせたものが，今年はモルヒネに捻ぢ込んで蒼い顔して，木綿衣で我慢してゐるが，来年は古い麻袋の中にくるまる乞食になつてまごつくべく観念してゐる。馬鹿に大きなデカダンのオピアム・イーターもあれば，守銭奴の苦力もある。醤油の種類が四十種あると謂ふ支那料理もあれば，生胡瓜に高粱の湯漬もある。正月と盂蘭盆とだけ，無暗に甘いものを食うて，矢鱈にめかすが，平日は馬糧に似たものと，襤褸で辛労してゐる。その距離が余りに懸け離れてゐるではないか。亜細亜的な暗い術策を目論見るかと思へば，巴里の真中で裸踊りの外交をお始めになるといふ具合。朝鮮人より悲憤慷慨するかと思へば，けろりと忘れて国家など眼中にないといふ有様。性善説と性悪説の両端の哲理が生れ，中庸を説く必要の有るのも，この「広さ」から出たのである。

「長さ」は支那人から，山出しの心を奪ひ去つた。田舎者が生れて初めて，ひよつくら都にお上りした時の心持，山出しの心は支那人にはない。現代文明の何物を見ても，殆んど凡て自国の過去に持つものである。孤児院も貧民修芸所も済生会も何もかも耳新らしいものではない。あれば飛行機位であらう。そこに字義通りの中華的な，事大的な根性が芽生える。そこに思ひ切つた欧化の及ばぬ原因がある。支那は日本のやうに，春のよき圃ではない，寧ろ根株のごろつく冬の圃である。新らしい種も思想も，古根株に災まされて生え難い。これが「長さ」の悩みである。

支那は「広さ」と「長さ」に悩んでゐる。

四

人間の生活は神秘である。如何に有触れた只の人間の生活でも，容易に他の窺ひ知れぬものがある。況して一つの民族の生活の営みは，他の民族の観察者輩の思議を許るさぬ。

十日支那を覗いたものは支那は解らぬと言ひ，百日駐つたものは，支那通の顔をし，更に二十年研めたものは，支那はスフインクスだといふ。必ずしも無理ではない。支那人の生活は余りに神秘であるらしい。

大体に於いて，支那を文明の老耄者だと評するものと，新らしい若さのある生活だと論ずるものと二つの支那観がある。

支那を過去の文明国として見る人たちは，現在の支那を文明の死骸だと考へる。凡そ文明に年齢が予定されてあつて，リズムのやうに，一定の長さを以て繰返へさるゝものであるとせばバビ

ロン文明やエジプト文明のやうに，支那文明を過去のものとなすことができる。然らば文明の死骸たる現在支那は，二十世紀文明を，自己の死骸を以て，暗示し，警告してゐるものである。それは会葬者が自己の行く手を予感するやうに，二十世紀文明は，支那の現状まで落ち行くべき末路を見せ付けられてゐる。通夜するものが，わかく去つた死者の病源を思うて，良薬のなかつたことを惜しむやうに，現代二十世紀文明は，支那の死骸を見て，その長い過去に死を招いた何等かの病源を探らなければならぬ。

文明を支那の現状に導いた所謂東洋文明の欠陥と病源は何処にあつたか。それは文明批判者の区々観察に依れば，種々雑多であつて，枚挙するさへ億劫である。只稍々正鵠を得たものはエイチ・エイ・ジァイルズの説であらう。東洋文明には三つの欠陥がある。過去に強いあこがれを有つて，未来と現在を嘆じ歎く癖㈠，積極的に血を以てしても仕遂ぐるといふ熱がない㈡，余りに早く沒法子（しかたない）を言ひ，天命運命と断念しすぎる㈢，この三つを一括せばそこに東洋的なトーンが響いてゐる。支那人は全く世界的で，地方味の濃厚な何物をも有たぬが。只東洋的なトーンが気分づいてゐる。現代文明のデモクラシイに信念がなくば，文明は支那のやうな死骸となるであらう。思ひ当らぬこともない説であると思ふ。

果して支那文明が死骸であるとせば，之に薬餌を注いで甦らせ得るのであらうか。教育家と宗教家また外交家も，茲に当つてまごつくのである。支那人は啓発指導しても，遂に復活せぬ人間であるかの如く，実際思はれてならぬ。英米人の中にも少からず斯う見るものがあつた。また現にある。そこには改造も宗教も，絶望であつて，只牛馬のやうに取扱ふべきであると謂ふ悲観的支那人観がある。孫文の秘書の徐謙は，孔子のやうな御用政客でなく，耶蘇の如うな元気のある若々しい人格を尊崇することに依つて，或は死骸と成れる支那文明も甦るであらうといつて居る。或はそうかも知れぬ。

支那を過去の文明国とせずして，五千年間の修業と苦るしみを以て，漸く国家とか，民族とか，土地領土の愛着とかの凡てに無関心になり得たものでありとすれば，現在支那は文明の帰趨であり，痛快なる成功であらねばならぬ。然らば支那は国家の死骸であつても，人間はやつと生まれたばかりの若さに生きてゐると言つてよい。今頃国家らしく欧米や日本の真似をするのは，絶大なる時代錯誤であつて，死骸をつゝき起こして，もう一度浮世の憂目を見させやうといふやうなものだ。現に支那を三国志の昔に立ち還へらせてゐるではないか。けれども多数の民衆は南北の対立に対しても，無関心である。而も知識階級の人達でさへ無関心であるのが少くない。

支那が世界を支那化することが，なくしても，世界が支那の如うに文明を漕ぎ着けるならば，結果に於て，同じであると思ふ。漢人は戦に負ける毎に大きくなつて，支那大になりえた如く，今一度奮発して世界大になるかも知れぬ。支那人は飽くまで面白ひ人間である。支那は現状のまゝを発足点として，思ひも寄らぬ未来を齎らすべき現代文明よりも，二千年お先を越したものであるかも知れぬ。

支那を文明の老耄とするものは，更生と若返りを企て，文明の帰趨と見るものは，新味ある何物かを来らすものと夢みる。暗いロシアが若々しいとせば，支那はロシヤよりかもつと若いであらう。支那は解らぬ。只信ずるを得る，此民族は只物であるまいと。（一九一九，三，二五）

清水安三「北京通信」（『基督教世界』第1857号，1919年5月22日）13頁。

三月々底住み慣れし奉天を離れ，燕京に到着，笈を埋めるの暇なく，就学其後一意専心に有之申候。一年有半の奉天生活は青年者に取りて，涙の谷を余りに多く過ぎ行くべきものに候き。さはれ今にして思へば，更に艱難を越ゆべき支那人伝道者の試練にて候ひしか。奉天に着早々「支那語ばかりやつて居るは閑散だらう，日本人伝道もやるがよい」と聞きもし，成程とも考へたがそは今更の如く滑稽事にては候ひし。支那語を物にせむ為めには，日本人の顔を見るも毒，暫く母音語を用ゐざれとは言ふも愚かな真理に有之候程に，何とて悔悟の遅かりし。

異郷の異風変習先達の言も時に当らず当らざれば，必ずそこに悩みて，改むべき日を待つのみに候ひき。如何にその改むべき日を祈求熱望申候ひしかは，顧みるだに断腸に候。今回一つは先達の愛顧に依り，無論店天寵厚くして，決然として茲暫時一直驀進に語学一天張の境遇に相成申候。只管この先見の明足らざりしも過去一年有半の，半ば徒消の罪過を，支那人伝道有志と凡ての同情者に謝罪得罪するのみに候。

北京に在りては，車夫乞食に至るまで，てきぱきせる支那語を用ゐ居り，門前一歩を出れば，我師三に止らず候，上半天は四時間を学校に学び，下半天は二名の教師を一時づゝ聘して，力学申居候がこの語学実に無味にして，無暗に発音困難，卓を叩いて，一日三度自己の脳力を悲しみ申候も及ばず候。

支那事情に関して他日論稿申度候へば，茲に何事も語らず，只頑健に努学せるを通信して，大方の祈禱を我が為に願ひ申候。只小生支那人の味方たり，同情者なる事を申添へ凡てを他日に残し申候　不一

清水安三「在支外人生活の批判」（『我等』第1巻第14号，1919年12月1日）21～28頁。

一　日人は嫌はれ白人は慕はる

人は自らの顔を見ることが能きぬ，鏡にかけて其顔を見たかのやうに，せめてもの満足をせねばならぬ。或はそれで満足能きねば，他人の自らに対する態度を推して，自分の美醜を察する外ない。若しか子女の前に立つて，愛慕の情を以て，持囃されたならば，先づ自分が美男子であるか，それとも人品賤しからぬ風丰を持てるものと，自惚れて差支あるまい。私達は日本人を理解するには，余りに縁近い自らのことであり過る，是非能ふ限りを尽して外国人が日本人に対する態度を覗うて，自身の素顔を求めねばならぬ。支那人の眼球はよき一つの鍵であるはしまいか。私達は支那人の素振を見て，まざまざ自らの醜さを悟るのである。よしや多くの日本からの旅人が，支那に来遊して，今更のやうに強国の有難味やら，自負心を感じて帰らうとも，心あるものは愈々日本人自らの，小つぽけさと，なさけなさとを思ひ当つて，自負自大どころか，恥しさを感ずるのみだ。

女郎の口頭よく，人をちやほやすると雖，賢い男はその些細な素振を女の一挙一動に見着けて，よくその浅ましい売笑気質を洞察することが能きやう。若しも鼻下，長うして，其口車に旨々と乗るとならば，いざ心中といふ大事の段幕で，指を咬へ歯を噛むの馬鹿を見る。支那人の口から安価な口調で，日支親善を聞かうとして，狐めつてみたり袖引いて見ても，それは腹のどん底から惚れさせてない限，大事の時には，内証の相談すら，所構はずばらされてしまふ。愛し愛されてゐぬ日支親善は，外面的の飾に過ぎずして，まさかの時には地団駄踏むべき赤恥の外には，何等の収穫もあるまい。

青島が独逸のものであつた間は，それが支那自らの支配であつた昔よりか，何んぼか山東の利便でもあり，恩恵の感謝であつた。それが日本の手に移つてから以来，汽車に乗つても「こちらニヤー」式に取扱れ幾多の点に不快であり，苦悶となつたと感ずる時に，北京游街会の焼打デモンストレエションになるのではあるまいか。本国の利益を本位にする植民政策はもう，疾うの昔に時代遅れとなつた筈だ，少くも互利共益の植民政策を採用せずば，朝鮮騒擾は跡を絶たぬであらう。日本人が植民して行くことが，支那社会の風儀改習であり，文化刺戟であらねばならぬ。そこまで漕着けねば，日支親善は腹の底からの要求となりはせぬ。然るにそれが逆に実行せられてゐることを，悲しむものは私一個ではありはしまい。日本人の移住は，支那人の良風を破壊することはあつても，感化を与へることは極めて稀である。例へば支那の窰子―日本の遊廓―を開くには重税を納めて，城外―郊外―に家屋を持たねばならぬ。然るに日本人は奉天新市街発展策と称して無税に近くして，宅地までも貸与して窰子を建設した。而かも支那輿論から良習破壊てふ汚名をまで難着けられ乍ら，建設したのである。又日本人が城裡と人通たるに頓着なく，支那街に女郎屋を開業してゐる。その名目が日本人相手にあるにしても，二十名の邦人が住むところに，十五人まで酌婦であるところを以てせば，その内実は言ふを要せぬ。その他日本人の来住は，支那商業道徳の誘惑であつても，向上的感化を貢献するものではない。

支那観だの漫遊視察談だのと，割合に豆々しく論ぜられるが，実相の支那及支那人は，どれ丈け理解せられてゐるかは問題である。女郎を買つたことの更にない癖に，よく女郎のことに比喩を取るは，甚だ僭越至極であるが，この場合女郎を引出すことは，説明の便宜であらう。例へば京の花巷に遊んだ東下りの武骨男が，自ら不粋であることを忘れて，惨々に京女に嫌はれて帰つたとする。さうして西京游記に大観して曰く，「京女は薄情だ，人でなしだ」と。果してその京女評は妥当なものであらうか。京女の方でも東下りの男の武骨さにこりこりして，東下りと聞けば，冷遇するといふ特別待遇法を造るのである。凭うなると東の人間が，京の人間の実際気質を知る為めには，余程の好男子の粋人を派遣せずばなるまい。それとても曾て武骨者の行つたことのない方面，例へば京の町人と語つて見るがよい。支那人は日本人を遇するに，一種の特別待遇法を以てするやうだ。その所謂支那国民性なるものは多く，日本人に対する支那人特殊気質にして銭を愛すること餓鬼の如く，等と批判するのに似た観察である。然り而してだ，かゝる日本人丈けに対する支那人気質を，型嵌めるまでには，幾多の日本人が，悪い努力をしたものだと思ふ。「ニヤー」とうふは「お前」といふ言葉らしい支那語に爾といふ語がある以上，これは支那語から来たものであらう。然し支那人は「ニヤー」は日本語であつて，お前といふ意味だと信じている。「豈はからむ，そは支那語なりしとは」と支那人は言ひ「けしからぬ日本語であつたと思つてゐたのかい」と日本人は嘆ずる。猶それに類する言葉が，幾つも幾つもあるやうだ。支那通の支那人観は，豈はからんや日本人の気質を喋々せしに非ずやとは，年来の私達の実観である。白人の支那観と日本人の支那観の差異ある所以はこゝに起因してゐるのだらう。見られよ日本人の足跡未渉の寒村の気質を，勿論田舎は木訥（ママ）であるにしても，その差の如何に大なるを，また思切つた人道的な，謙遜なる日本人として，支那人と交る時に，余程の好男子が東から下つて，京女の濃情を知つて驚くやうに，今まで聞かされた支那人と丸切り別な，人達と手を握ることが能きる。

日本人は毛嫌ひされ，白人は慕はれる。彼は排日主義だと聞けば，官民から信頼せられる要素

を備へてゐるものと称する。反して彼は西洋に信頼してゐるものと知れば，進歩的な人物だと看做されてゐるやうだ，満鉄沙河口工場の頭痛は，支那苦力が職工として一人前に成ると間もなく，他に至つて出身の道を自から開拓する為めに，受ける苦力使用の困難であるさうだ。然るに山東その他から欧洲に苦役の為めに，出征した幾十万の支那苦力は，生還も知れぬにも拘らず，その地の英米宣教師に支給の金銭を託して，帰朝後の富を楽み乍ら去つたといふ。英仏宣教師の所有の土地には，教会を中心とした共産的な村があつて，既に祖父以来三世生涯をその村で，生れて死んで行くのを見る。僅かに苦力の十年を捕まへることが，至難となつてゐる沙河口の向上の悩みは，確かに研究の余地を有するものではあるまいか，親子孫三世の生命を委するに足る白人村と，五年勤続できぬ日本人工場との間には，大いなる距離があるに相違ない。日本人を嫌うて，白人を慕ふからには，日本人の器量が白人のそれよりも劣つてゐるのではないか。

日本人はもつとおめかしを要する。心からめかしてかゝらねば，支那人を手懐けることは困難である。こちらからも魂を打込んでかゝらねば，恋は燃えせぬ。現に寒村に到らざるなく，僻地として在らざるなきは，白人の医者牧師と，その学校病院である。白人は支那人から慕れる前に自ら金も心も，投出してゐるのだ。それは小金を蓄へて他に職を転ずる日本の支那人教育者では，思いもよらぬ仕事である。日本から来たお医者は，どうせ一生居るのでもなく，支那人を愛しやうとするものでもないから，支那語すら研究しはせぬ。故に支那人を教育する小学校に，「世界皇室長短比較一覧図」などを吊るして，一覧図に赤く最も高く突出してゐる赤い色を書いて，お国自慢をさせてゐるのさへある。遇々学堂を興せば，反つてせざるに勝るものとなり，排日養成所と化するのである。病院を建設せば，患者たる支那人をして白人病院に比較せしめ，支那語に通ぜぬ医師と看護婦に取扱れて，寂寞と不安とを感じせしめるのみだ。どうせ設立の動機が，「支那人を愛するといふに非ずして寧ろ国威を争ふ為」といふ所にあるのだもの，やればやる程，疎んじられるのも無理ないことではありはする。

日本留学の支那人は，生粋の排日者として帰つて来るのが多い。尽力してやればやる程嫌らはれるといふ有様である。凭うなると日本内地の教育者から，下宿屋の女将までが，世界の人間として立たねばならなくなる。大に然りである。日支親善は在支日本人と在内日本人の総掛りの問題であらねばならぬ。国民教育者が，事実を事実とした歴史を講じ，世界の人間としての教育を開始しなければ，意を安んじて支那青年を留学せしめ得ないではないか。

トルストイは一本の燐寸から町を焼き一個の卵から村を喧嘩せしめ得ると小話に語つてゐる。先づ根本の一点を改めねば，日支親善は来らぬものであらうと思ふ。また直接交れる日本人達の一挙手一投足，卵一個の争を治め得ずば，日支親善は，実現するもので断じてないらしい。

二　日人と白人の生活振比較

支那に於ける白人の品性が，皆が皆まで優れてゐるとは毛頭言ひはせぬ。泥酔漢も居れば，畜生に近いものも見受ける。しかし忘れてならぬことは，それ等の無頼子の為めに，白人といふ概念を低下せしめない程に，くだらぬ奴よりも，より多く優れたものが，より多くやつて来てゐることである。日本人はそれが丸切あべこべで，奥地へ行けば行く程くだらぬ荒肌者が，頑張つてゐるやうだ。可成言ひ古るされた言葉でいへば，日本移民の先駆は娘子軍で，白人のそれは宣教師だといふことである。子欲居九夷或曰陋如之何子曰君子居之何陋之有といつたやうな四角張つた言葉を抽き出すまでもなく，異郷に夷狄に身を置いても，人は変らぬ筈であるけれども，どう

しても肌荒うなるを免れぬらしい。白人と雖，支那に居る宣教師は，日本に居るそれよりも，何となく心を許るせぬ気がする。

白人は家族を伴うて移住し来り，家を貸せば庭園を造つて草木を培ふ，そして自邸には四季，花を咲かせて故国の春秋を羨むの要もなくコンフオダブルな家庭を巣くふのである。日人は単身逃げる様にやつて来て，金が出来たならば帰るんだい，木や草を植ゑても持つて帰れはせぬ，もう臥薪嘗胆だと忍耐してゐる。さればこそ白人は落着いて，研究的にまた永住的に最初から生活を開始し得る。日人は無闇に吝着く癖に（金を早く作つて帰国したい為めに），女郎屋へ行つて鬱憤を晴らせねばならなくなり，あせる為めに山師根性になる。無手で飛び込んだ為めに，薬屋位が上々，女ならば女郎屋，その職業は兎も角，やつと根拠を据ゑ得た頃は，より有力な日本人来住の為めに，十年の苦辛水泡に帰して更らに奥地へと追ひやられる。白人は大なるものが来れば，先入者は協力者となつて，更に発展するの機会を造るのであるが，日本人の何よりもの強敵は，後来の大資本家であるといふ。何か甘いものがあれば，蟻集して日本人同志撃を為すことが，何時ものことであるそうだ。鉱山を発見する，そこに日本人同志の競合ひが開始せられて，遂には探掘できぬ程の大価格になつてしまふことも多い。山師根性は日本人をあせらせて，雑多の悪事を働かせてゐる。今は中止となつてゐるが，奉天の兌換に依つて，中国銀行を困憊せしめたのも日商の卑劣な根性に外ならぬ。土地商租権の悪用に依つて，高利貸の生活を営むもの奉天に七十二名を見る。前田候に加賀を担保に金を貸して，変梃な理屈を捏ねるに類するものは，満洲にはざらにある。満洲旗人に改革前の領地を担保に，金を貸付けて，暴利を貪つてゐるものがそれだ。

さらばとて，一度投資せば，容易に回収できるものでもなく，又内地に帰つたからとて，さほどの事もなしといふので，遂に帰りたいと思ひ思うた丈けで，矢張落着いてゐねばならぬ。然らば何故に最初から，確りと尻を落着けなかつたのかと，後悔するのは一人二人でなく皆が皆までさうである。

私達はこゝに二三ではあるが，例外を書くのをうれしく思ふ。金州の支那教育者某，済南の東文学舎の某，厦門の教育者某の如きは，随分前から生涯を打込んでその地で，教育に従事してゐる，何れもが語学に熟通して，其地方の神のやうに支那人から崇拝せられてゐる。殊に金州の支那人は種々の手細工を教へられて，副業的な物産を得てゐるそうである。何れも既に自らの墳墓をその地に定めてゐると，然し乍ら之に白人の裡に求むる時は，百人でも二百人でも同例があるので，一寸讃め難いけれども，兎も角も，これ等の三君を有することは私達のせめてもの慰めでありはしないか。

三　日人は権門を取込み白人は多数を手懐けむとす

白人も最初は，権門を取込むことを，利得としたのである。達磨と使徒トマスを同一にする憶説は兎も角として達磨の布教も，景教も凡て，宗教を皇室から伝へ上から下へ及ぼさうとした。八三五年に来唐したシリアの景教僧オロブヌは太宗に寵愛せられて教勢を張つた。一二九一年モントコルビノは印度を経て来元したが，世祖に殊遇せられて教勢を得た。ザビエー門下のルクレー，ロジヤーは十六世紀の頃南清から北京へ，ロヨラは天津から北京へ布教の手を延べたが，康熙帝に力を借りて頓に振ふを得た。白人も此くの如く上流から，布教することを賢い早道とした。仏教も皇帝に依りて盛大に赴き，喇嘛教もそれに利用せられて栄えた儒教も王道なるが故に，王者に依つて崇拝せられ出した。さればこそ景教は今何処，ザビエー，ロヨラの信徒は日本の天草

程にも存留してゐぬ。只長安に永い間の埋没から堀出した碑が景教を記念してゐるに過ぎぬ。支那の現任仏教は，葬式商に過ぎぬ。昔と雖仏学であつて，宗教であつたかどうか疑問であつたろう。凡て上から仕向けられた宗教に，ろくなものはない。多分それは与へられてゐると乞食根性になると同じ理由であらう。兎に角血を以てしても取らうといふ，革命的な元気がなくなるからであらう。鄭家屯事件二十一箇条日支交渉の時に，布教権を得やうとて日本の仏教が，運動したのであつたが，何と思つたか，後に止めてしまつた。その時外人達から，実際支那人の為めにとあれば，布教権は何は兎もあれ，主張すべきだ等と弥次られた。布教権が無ければ布教できぬ宗教は，布教したつて駄目であらう。儒教の今日の悲境は，一つは団体としての結束が足らなかつたことが原因でもあらうが，今一つは王者から奨められたお蔭で，ふぬけた形式徳目になつたに相違ない。支那の宗教は凡て，王者権門から入つたから気抜けものになつたのである。近来日本は喇嘛僧に金を呉れて，団参観光に引廻してゐるが，喇嘛を助けることはやがて，喇嘛を気抜けにするものであつて，何等の軍事的利用にならぬことを，支那宗教史に依つて早く悟るがよい。

英米から来たプロテスタント布教者は，よくもこの道理を看破した。一八〇七年広東に来航した英国倫敦伝道会社宣教師ロバート・モリソンが，年齢二十六歳から二十年間即ち死するまで支那に駐つて聖書の飜訳と英華学院の設立に生涯を投出して以来，英人は攷々として伝道を開始した。一八三〇年米国宣教師ブリツヂマン・アピール渡来し翌々年ウエルス・ウイリアムス来つて，米人は学校病院に経営を拡めた。この新教の伝道法は，迫害せられることはあつても，権門の力を借りることを望まなかつた。それが為めに何名かの殺害をすら犠牲とせざるを得なかつた。

一九一八年調査に依る最新の統計は，信徒五十二万人に達し，宣教師数二千三百，内英人千四百，米人二千三百，日曜学校生徒十八万，施療病院は二十万のベツド延人数を収容し，三百六十個の学校を有してゐる。これに依つて見ても，彼等は貧しき人々の群と若い子供の為めに，布教をしてゐることが解る。彼等は飽くまで，子供から仕上げる丈の遠大なる抱負がある。西太后から殊遇せられなかつた憂目も，今は既に昔のこと現在二十名の大臣級の人物を自分達の学校から輩出させてゐる。最後の勝利は我等に在りとは，彼等の児童教育に仕向けられてゐる確信である。この子供から手にかけた秀才を以て，支那の知識階級を埋め得る時は，程遠からぬことであらう。

段祺瑞を取込んだり，張作霖に見込みを就けてゐるやうでは，日本人も駄目だ，ホルワツトに秋波を寄せセミヨノフにも未恋を持ち，変梃な仕事を目論んだ筆法で，支那の権門を取込むことはもう良い加減に止させねば後悔する時が来やう。時代は移る，一人の人物英雄で仕事が出来る時代は去りつゝある，多数と共に動き得る人物のみが，指導者になりつゝあるのは，支那でも同じ傾向である。白人がプロパガンダと新聞雑誌で，多数に訴へる時に，その日暮の日本人は術数権謀に依つて，少数の権門を動かしてゐる。眼前の将来は何れに勝利があるか，論ずるまでもあるまい。

政治談は素人観に過ぎぬが，宗教は確かに下から上に及ぼす時に，そこに生命がある。団匪の変の時には，幾万の支那人が，その牧師と枕を並べて信徒であるの故に殺戮せられた。若しも現在支那に宗教ありやと人問はゞ，私は回教と耶蘇教を宗教として指示するに憚らぬ。回教徒は七百五十二年の頃に山西太原に寺を開いて以来，アラビアン開埠地附近に最も多くの信徒を有し，漢人には毛嫌はれ乍ら，信徒と堅い律法苦行を為し続けて来た。今は五千万といふ数を有して，各地に清真寺を建てゝゐる。幸いにして御用宗教とならなかつた為めに，真剣な信仰を今も尚維

持してゐる，恐らく中華五族の中最もたのもしいものであらう。

多数は易り難く，少数は盛衰を免れえぬ。而も多数の裡には次代の権門当事者が潜んでゐるのではないか。少数は陰険な賄賂を以て取込み得んも，多数は開放的な正義真理を以てせずば，動かし得ぬ。けれどもあせらず時日をかけて，多数多衆を教化せば，少数を以て抑圧できぬ勢力となるであらう。段祺瑞は曹汝霖等はどうでもよい，日本も支那の多数を友として，親善にすゝむべきではあるまいか。或は多数のものには，言つても解らずといはむが，私は忍耐して自ら解つてもらへるまで，多数の指導と教育に着手するがよいと思ふ。（五月四日北京焼打の日稿）

〈1920年〉29歳

※古屋生「支那の危機と其救済」（『基督教世界』第1891号，1920年1月29日）8頁。

大正九年一月号の「チャイニースレコーダール」と云ふ雑誌の中に吾人の注意を促すべき思想が溢れてゐる。

一

第一注意すべきは支那は危機に迫つてゐると云ふ事である。之は支那人が痛切に感じてゐる。内憂外患である。内は支那政府が貧弱であつて政事家が腐敗してゐる事である。外は日本と云ふ恐ろしい隣国があつて常に土地を侵略しやうと窺ふてゐる。之れと云ふのも帰する処は支那が弱国であるからだ。

二

第二には支那を如何にして救ふかと云ふ思想である。

「中華基督教救国団」と称する者を組織し基督教青年会を始めとし多くの学生団を網羅し，支那全国に渡つたる大運動を試み輿論を喚起し国民の愛国心に訴へて国を救はんとしてゐる。一方には広く啓発運動として講演会を催し亦一方には教育機関を普く設けて国民教育に従事せんとしつゝある。

三

第三には支那学生団が覚醒して国家救済の精神を盛んならしめ全国々民に国家的意識を与へたるは誠に感謝すべきであるが，何時も破壊的方面に活動するを能とするのみで毫も建設的方面に働かないのを遺憾とする者である。此の際学生団を指導すべき指導者の起らん事を切望する者である。然らざれば彼等学生も露西亜に於けるボルシエビズムの様に変つて行くであらう。其時こそ禍なるかなである。

四

第四には斯る危機に迫つてゐる支那を救ふ者は只基督あるのみ基督教あるのみ，何うしても支那を救ふには基督教の感化でなくてはならぬ。チヤイナ，フオーア，クライスト即ち支那を基督に捧げよと云ふのである。上海に於て十二月に開かれたる宣教師大会は此のマトーを採用したのである。

如何にして支那を基督教化するかと云ふに一方には凡ての教派が教派を拡める事をやめて福音を伝える事，亦一方には英米に於て東洋人を排斥しつゝあるあの非基督教的態度を一掃し更に排斥的或は人種的区別をなす処の凡ての法律を廃止し，以て国際上基督の兄弟主義を実行する事である。

以上は社説と，シドニー，エル，ギユーリツク博士の論文と，テー，エツチリー君と，ホレングトング，ケト，トング君との論説の中に見出される思想である。

清水安三「異邦伝道者の悩み」（『大阪講壇』第231号，1920年3月1日）26～31頁。

一

組合教会が自国伝道から余す力がどれだけあるか，私等はよく考へて見たことがないから，皆目解らぬ。異邦を伝道する前に，お前の生れ故郷の村の伝道を少しは考へてみるがよいと，人にも言はれ自らも顧みもする。パウロの異邦伝道が精神的にも物質的にも，ゼルサレム教会の援助であり，貢献であつた如くに，組合教会の異邦伝道が少し位の援助を外から内へ齎す日が無いとも限らぬ。否あるべき筈だといふよりか，そこまで漕ぎ着けねばならぬと思ふ。

組合教会の運動に余力少ない時に，異邦伝道がどうして出来やうかと考へる人達が，イスラエルから二人と無いパウロが，異邦伝道に去つたことを偲んで呉れるがよい。異邦伝道をするだけの物質的資力を，持合わせてゐなかつたといふよりか，異邦から献金を貢いで貰らはねばならなかつたゼルサレム教会のことを考へて見る時に，何とも得言えぬ真理を握つたやうな心持がする。異邦伝道がどうしても必要なものである時に，自国の教会の実力等いふものは問題でない。

異邦伝道は即ち自国伝道である，とは私達の常に達し得る結論である。極めて手近い話に変へていへば，故里に重ぜられぬ者が，生れ村の伝道に心病むよりか村の安さんは，遠い国へ耶蘇伝道に行つてるそうだと噂拡るだけで，それが一種の伝道の緒ともならうではないか。私にとつて怠れぬ祈禱の一つは，肉に係る村に留る者の救われむことであるが，私は何等の努力も直接に為し得ぬ裡に，年を追ふて信ずる者が姪甥の中に増してゆく。

黒い人と白いものが，黒い人の住み慣れた土地で，いがみ合つてゐる時も，阿片を売る買はぬと喧嘩してゐる日も，米英の宣教師は異邦伝道を止めなかつた。自国を天上に移してから，お説教をせよと言へば，何れの日にか，異邦伝道が始らう。軍備撤廃は一国だけ独りで開始できる問題ではあるまい。文化へ一歩でも余計にお先へ進み過ぎた国家は，遅れた文化を持つ所の蒙昧野暴好戦国民に虐けられ，折角進め得た一歩の長ある文化をすら，根切りに荒らされてしまふ。そういふ危険をも顧みず，世界は先を争ふて文化に往く。

異邦伝道即自国伝道の説は，案外深いところに意味がある。世界と共に歩調を合せて，教化に進まむことを望むときに，異邦伝道を考へないでは居れぬ。自国だけ独りよがりでは，その自国の文化をすら，滅茶苦茶にせられると思ふ。パウロの異邦伝道は，今も猶二千年の達見であつたことを惟ふて，感謝せぬものはあるまい。

二

私達が朝鮮と支那に，基督教伝道を観る時に，一種の顰蹙を感ずる。英米人の傲慢なる心は，朝鮮人支那人をセコンダーピープル取扱ひを為して恥ぢぬのを見て，黄人の為めに慨嘆を感ずる。国民性に順応して伝道することを余に考へ過ぎて，大切なる真理をすぐ台なしにして顧みぬ，伝道を事業としてやるならば私達とても文句はない。けれども伝道が飽くまで，真理に国境なしといふ点に力張すべき基礎があるならば，国民性の頓魔なところを根底から，変へる位の勢込が必要ではないか。支人那が妾を蓄ふるはまあいゝだないか，男女別席はまあまあそれとせよ，かくて十字架の教は骨抜にされて，信徒の数は算盤に多く見せるであらう。

朝鮮と支那の基督教が，内面的な煩悶に逢つてゐぬことを感ずる。聖霊が子を産むといふ論に結るにもせよ，子を産まぬと結論着くにもせよ，貴い煩悶を通つたものであつて欲しい，必ずしも支那と朝鮮から，批判と新神学の眼が開くやうに極論するのではない。兎も角自分の宗教，自分の苦るしむ（ママ）で見つけ出した神を建設して欲しい。

朝鮮と支那の教会が，思想的にもつと悩み過ぎて来たものであればいゝにと思ふものは，私達ばかりでなく，英米宣教師も同感であるそうだ。それと同時に教会経営に於ても，もつと一人離れの能きる一本立の気分が欲しい，総会の側面観は，只英米の宣教師の議論の外に聞きえない，死せる教会といふ判決を持つてゐる，英米人が合弁事業を創める度に，頭を凡て白人として経営するのを見る時に，国民性に基いて，やつてゐるのだと感じて讃めも能きる。けれども教会ではせめては教会でなりとも，国民性の開拓を，もつと根本的にやるべきだと思ふ。もう伝道五十年も遠い昔に過ぎた。そろそろ伝道らしい伝道，教会らしい教会を始めもし，建てもするがよいと思ふ。

どうも英米人がやりそうもなく，まだ傲慢な臭味があるとせば，私達は思ひ切つて，自由，平等博愛の真実の宗教の宣伝に使命を感ぜざるを得ぬ［。］わけても組合教会はそういふ使命を，感ずべきまた感ずるに足る，過去と現在の意気があると思ふ。

三

世界に対して，異邦者を見出し得ぬ，同邦者の外には何者も発見できぬ私達に取つては，異邦伝道と自国伝道を分別できぬ。朝鮮に住む宣教師達は朝鮮人を今頃から愛国者の群に追ひやつて，豚を狂せた悪魔の精のやうな，基督教魂を抱かすか，それとも国家の僕といふよりか，世界を一つに見る人間として，望み生くる基督教精神を吹込むか［,］これはようく考へて頂きたい問題である。朝鮮人をしてもう一度愛国者に，遡らせる為めには基督でなくとも伯夷叔斎だの文天祥を呼び出してもどうにかなる。高山彦九郎だの由井正雪めいた基督を宣べるのを，男らしいの何だのと考へてゐるやうでは駄目である。そんな基督を伝道するつもりならば，新約聖書は不要であると思ふ。

兎角日本人は，そこらにまだ生命を感ずる国家主義者が多い，けれども朝鮮人を真に救ふと考へるならば基督を真正面から伝へるべきだ，基督はローマに反逆もせず，ユダヤ王国も建てやうとせず，国家には不関焉であつた。カイゼルのものはカイゼルに還せといつて，手際よく国家問題の凡てを，木で鼻汁をかむやうに片着けたではないか［。］朝鮮人を再び小朝鮮国を建てさすべく謀らせる必要もなく，また日本の手先にもならず，真の超国家的な宗教を，伝へるべきだと思ふ。この意味に於て私は朝鮮人の幸福を羨むものである。組合教会の朝鮮人信徒が，殆んど万歳運動に加らなかつたことを私は理解できる。彼達とても人並に万歳運動もやりたかつたらう。群集心理に化せられもしたらう。けれども巍然としてその裡に，染らず陥らず国家に超然として進み得た，実に見上げたものだ。渡瀬牧師の腹で，こゝまでぐつと纏めたものとせば，渡瀬牧師はえらい人格である。物を盗れた時に，朝鮮人が盗んだのだといふ子供の口を蓋ふて，朝鮮人が盗んだのではない，泥棒が盗んだのだ，泥棒は日本にも居るといつた渡瀬牧師ならば，或はその力もあらう。けれども渡瀬牧師の人格高くとも，またどうして多くの信徒をして万歳運動から，仲間外と能きやうやだ，私達は確に基督教の真理の裡に，超国家の権威があることを知つて，それに依つて，彼達が行動したことだと理解できる。私達は恁ふいふ意味に於て，寧ろ彼達を嘆美

する。彼達を腰抜だと思ふものは，万歳運動に参加するが易いか，せぬが勇しいかを知らぬからだと思ふ。

朝鮮伝道も，支那人伝道も世界兄弟主義の上に立たねばならぬと信ずる。然るに英米人はいつも排日主義又は，日本抜き世界兄弟主義の上に立つて伝道してゐる［。］誤つた東洋伝道から彼達を救ふものは，日本に在る宣教師と日本基督教徒の努力である。彼達と常に手を握り，常に知合つて互に，十字架の下に交際往来せば，彼達もいつかは解り，またお互に改悔を感じ得るであらう。

四

国威の発揚，支那人懐柔の為めに建てられた病院は反つて，誤解を生み，反つて他国の設備に並び得ずして，物笑ひとなる，かくて支那にどうしても文化的事業を興さねばならぬけれども，人間がない間は駄目だといふことになつてゐる。私こそ支那人の為めにといふ女が看護婦となり，支那の土になりたいといふ男が医師として來ねば，病院を建設しても駄目であるといふことになつた。同じ意味に於て，心から燃えた教員と伝道師が支那に行くべきだ。英米人と紛紜する為め，脊比べする為めに，來るやうなものでは，到底あゝした語学を学ぶ勇も起らず，またライフウオークにも為しえぬ，仕事師ではやり切れるものではないらしい。飽くまで自国と他国の別を感ぜず，国家的に中性になつたやうな気分で，せつせと人を愛して働くものが，異邦伝道をすべきではあるまいか。

日本を愛して，支那を伝道する位矛盾はない。支那人を―支那国をではない―愛するが為めに支那伝道をする，そこに生命を投げ出す勇気が起るではないか。国家のメイドサーバントは御免である。また政策的に伝道しても，到底天地失するとも失せぬ宗教を植込むを得ぬ。

けれども異邦伝道の為めに，熱する者は多く国家主義の凝塊である。私達はかゝる手合から将来は，思ひも寄らぬ金銭をもぎ取る丈けの勇気を要する。そうして凡てを聖化して，一歩も主義と精神を曲げずして，それを用ひ得る丈の信仰を要する。この信仰がなければ救世軍も基督教青年会もやり切れぬ。御下賜金をすら主義と精神に合致してのみ費す丈の勇を要する。之れ位の勇がなくば，これ丈の大きい腹がなくば，異邦伝道は出来ない［。］

国家を忘れて，国家を益すること位，大きい愛国者の仕事はない［。］私達は国家を屁とも思はぬ心持によつて日本魂の光を異邦人に輝すことができるのである。これが為めには，聖きものには凡てのもの聖しといふテキストと共に，小さい心から解放せらるべきだと思ふ。朝鮮人を真に益してゐるといふ自覚があれば，朝鮮の豫算案として伝道費を挿入させて，そのお金をこちらの主義精神で用ふることに，何の不合理があらう。現に支那に於て，政府は多額を英米人の教会に寄附してゐるではないか。異邦伝道者の悩みは，自らに主義を堕落せしめないやうに，祈るところに深い。憂も喜も，その悩みにあると思ふ。

今や日本は，国家を忘れて国家を愛する者を要求してゐる。

清水安三「理解すべき排日運動」（『基督教世界』第1898号，1920年3月18日）4～5頁。

一

支那に於て群衆運動が，あゝまで成功しやうとは，誰しもが思ひ到らなかつた。首都北京の真中で，排日に熱する学生青年が，勝手次第に店舗を襲ふて日貨を街路に吐き出させて，破壊し焼

棄する。商家の小僧も番頭的も応戦拮抗するどころか，協力加勢してぶつ壊してゐる。出資者も経営者も，そうすることが一種の広告であり，信用の増進である限り，黙許し尻押してゐる。巡査と兵士はこの光景をきよりろりつと黙視して制しもせず，声も懸(ママ)けず手も出さぬ。それは番頭や巡査兵士連に，排日感情が胸一ぱいである限り，何うするとも能きないであらう。日本から申込まれる抗議の都度上から下へ，警部から巡査へと種々と命令が伝達せられるであらう。けれども長い年月の間日本人には随分手古摺つた覚へのある警官達は，上下共に形式的伝達の外には何等の熱誠がない。排日運動者の青年学生を捕導しても裁判官に，排日感情がある間□何の効果もあるまい。排日命令を厳達せしめる為に，公然と抗議を申込み，隠然と賄賂を用ゐても，生ける人間が兵士や巡査である限り，凡ては徒労であらねばならぬ。また排日者を捕導しても四億の国民を，幽閉する丈けの留置場又は牢獄がなければ収容することが能きまい。

二

東洋に於て，無抵抗主義の戦闘が日本に向つて，行はれてゐる。朝鮮に於ける万歳運動，支那に於ける排日運動がそれである。彼等は軍器を持たぬ。彼等は人殺しをせうと考へぬ。彼等は時の力と理の勢を真向に振翳してゐる。軍備に凭つて何もかも解決能きると考込んでゐた日本には，まだまだこの空ら手で立てる群衆の力が飲み込めぬらしい。そうしてそれが軍人の精鋭なる武器でどうするとも能きぬ大敵であることが解らぬ。朝鮮人と支那人は今や無手勝流の剣道の奥義を，体得し出した。拳銃を以て嚇す者がある時に，両手を挙げて謂ふ所のハンドアツプを為す時に，人間は安全の境に入れる。朝鮮人支那人もそのハンドアツプを以て殺伐なる日本軍人に対抗せんとしてゐる。強敵の前に無限に強い日本軍人も莞爾として空手で手向ふものを打つことも殺(ママ)もこ(ママ)とも能きまい。日本刀は目に見えぬ真理を断つには余りに，切れ味が悪いと云ふことである。今にして日本人が考へ直さねば，日本人は世界の人間から仲間弾きになるに相違ない。国家が孤立の域に突込れてゐるのは，遠の昔に於ける事実である。孤立の国家が亡ぶか亡びぬかは，具眼者が一寸考へれば解ることである。日本人が仲間外れになつて，日本人とは一言葉も喋らぬといふ同盟も起るだらう。現に日貨抵制を一通やつたら，不語同盟を起そうといふ運動を企てて奔走してゐるものが多い。

支那人が日本人と共に，働かないと［,］死んでも働かないと契つたとせば，満鉄の汽車は動くであらうか。私はそんなことは知らないが，二十一箇条は事実に於てふいになるかの如く感じ得る，青島を専管にしても共同にしても，実際に於ては同じであるやうな仕組にして置いて，世界の感情を害し益々日本を孤立に導くことは，考へ物であると思ふ。もつと男らしくやるべきではないか。

業々日本の自主的行動であると前触して，福州から軍艦を引上げるやうな日本では駄目である。支那の輿論を聞いて軍艦を引上げると所謂，大きく出る丈の度胸がなければ，何もすることは能きまい。支那の群衆の声を聞いて青島問題も形づけるがよい，今後は日本の輿論と支那のそれとが一致して，お互にその国家当局者を動かすべきである。支那の青年学生達は，日本の為めに日本の軍閥を倒し，二十年後には日本からお礼を言つてもらふ心算を持つてゐる。日本の青年達も，彼達を理解して協力する丈けの度量と勇気が必要ではあるまいか。支那も日本も，改革が来らねば，日支親善は来りはせぬ。支那青年の要求は案外，猛烈なるものの改革をまで望むでゐると思ふ。

三

私は毛虫に触ったこともなく，螫れたことも更にない。けれども毛虫は大嫌ひである。私は毛虫を嫌ふ理由を知らぬ［。］只祖母から母へ，母から私へ嫌ふべく毛虫の肅念の与へたに過ぎぬ。日本人はもう直ぐ，人間界の毛虫にならうとしてゐる。親から子へ，子から孫へと日本人を排斥すべく，支那人は教へ伝へる，五月七日を中心にして，年々歳々排日が宣伝せられ，年々に徹底的に行はれる。封筒の紋様から財布の装飾に到るまで，国恥忘る勿れ，排日は怠るべからずと書着けてある。少年支那人の頭脳にも，消し得ぬ文字で書込まれてゐる。日刊新聞には三百六十五日毎日五月七日を忘るゝ勿れと一号活字で，必ず大書きしてゐる。私達は排日も日本の為めには，口に苦い良薬であると嘯いて居れなくなつた。

どうしたならば之に対応することが能きやうか。それは実に刻下の一大問題であらねばならぬ。対応策としての議論に三種あると思ふ。威力を用ひて解決すべしと言ふもの㈠日本の改革は自ら排日を柔ぐべしと謂ふもの㈡積極的に文化的事業を支那に創めて日支親善を来らせんと望むもの㈢之等である，日清日露の両役に於て，支那人が日本人に対して，恐怖を感じたことを連想して，今頃もう一度懲らしめてやれば必らず排日は止むものだと論するものが其㈠である。彼達は世界の大勢を考へて言ふのではないから，今は誰も議論相手になつて呉れぬ。議論も余りに距離のあるものとは，やる気にならぬ。参謀本部で多くの人手を煩して，平面的に大陸を測量し尽したからとて，少くも立体的に動いてゐる支那青年の頭脳が解るまいではないか，支那学生達は日本が侵畧主義を根本的に打切つたならば，排日は直ぐ止むといふ。けれどもおいそれと日本も，止めないであらうし，止めたとしても満蒙除外で力んでゐる間はまだまだ駄目である。支那学生達としても支那の改造，朝鮮の解放，日本の革新を自分達で火附けるのだと，気焔上げてゐる限り，二十一箇条撤廃位では，排日を打切るまい。㈢の議論が近来追々と盛んに声を立てて来た。文化的事業をやらうといふものも露れて来た。病院を建設しやうといふもの，学校を開かうといふもの可成に多い。けれども国家のメイドサーバントとして来るものにどれ丈の支那人を愛する心があるかゞ疑問である。病院を建てても生涯の業とし来てゐぬ看護婦や医師が，支那語をやる気にならぬのも無理ないことである。危篤の病者に通訳附で診察してゐても困ることであらう。国家的に考へてやるべき必要を感ずるものが軍人か何かで，割良い報給暫く雇れて行くものが医師や看護婦である間は，やればやる程，他国の文化的事業に比較せられて，馬鹿にせらるゝのみである。基督教の伝道をすら，国家の手先に用ゐるものすらある。支那では各派教会が既に縄張を定めて受持を分つて，伝道をしてゐる。そこへ日本の教会が割込んで，俄仕掛に乗り出すとせば，反つて悪結果を齎らさぬとも限らぬ，経済的合辦事業を起して遠い将来に親善を来らせんとするものがある。けれども之すら国家の為めに行ふべく感じたのでは必ず失敗に帰するであらう。

もつと日本人が国家を忘れ得ねば，支那人と手を握ることが能きない。支那人と共に排日運動を起す位の，大きい度胸を持合せてゐないでは，どうすることも能きぬ。合辦事業も支那人を益して，日本人には損ある如き事業をどんどん起すがよい。伝道も英米人の教会を手伝ふ位の度量を要する。支那人留学生が，どこに来ているか解らぬから，日本の教育ももつと世界的なものに解放して，愛国者を作るよりも，世界の人間を育てることに改めるがよい。日本を愛するものは，もちつと日本の国家を忘れるべきではないか。

四

排日の煽動者を米国宣教師だといつて，彼達に凡てを罪着せんとするものがある。支那民衆が空手で立てる無抵抗主義の挑戦者であるが為めに，日本の軍人達には之と戦闘する目に見えぬ武器を用意して居ないばかりに，相手を米国と疑視して，刃向はんとするのも無理からぬ誤り方である。尤も金銭的応援があるかもしれぬ。私は調査して見ぬから知らぬけれども，ありもせうと考へば考へられる，けれども，支那人には排日する丈の意気があり，米国人に金銭がある，かゝる時に始めて話が成立するのであつて，どんなに金銭があつても，その意気が皆目なくばものになる訳はないのである。石に火を着けても燃えぬではないか。

排日の煽動者を強いて索めば，米国宣教師でもなく彼等の信仰する耶蘇基督こそ，絶大なる煽動者となつてゐることを知り得る。ミリタリズムに拮抗することが基督教の真理に合つて居る限りそれは当然のことである。独逸の軍国主義を倒す為めと称して，英米の教会が募兵奨励所と成了つたやうに，支那の教会が排日宣伝所となつてゐるのである。独逸の内から出た革命が欧州大戦を結んだやうに，日本に内から燃ゆるものが焔を挙げねば，排日を根切にしはせぬ。支那基督教徒が真実に日本を排斥せなくなる時は，日本が眼覚めた時か，彼達が信仰を失つた時である。

支那排日運動者の望む如く，日本が対支政策を根本的に改むることも，日本人の態度が改らない間は，親善は来らぬであらう。日支人が特に親善して，協力して米国に対抗しやう等と打算的に考へてゐる間は，日支親善すら成立せぬに違居ゐない。日本人の世界主義が育たぬ裡は，到底対支問題は解決せぬであらう。

今假に日本が対支政策を光明へ一転するとせよ，日本人がもつと心持よい人間になり得たとせよ，然し，実は直に日支親善の成人がひよつこり生れては来ない。排日を今日に導くまでに日本は二十年間の悪い努力をやつて来た［。］これから善い努力を少くも二十年間，続けねば親善は決して来ぬであらう。私達はこの意味に於て忍耐を要すると思ふ。先づその旗挙げとして，二十一箇条撤廃運動なり，満蒙除外の取消運動なり，何なりかなり青年らしい対支運動を開始するのも，面白ろからう。けれどもそれをものにしたからとて，立刻に親善が収穫能きるとは思つてならぬ。

清水安三「支那に於ける宣教師」（『大阪講壇』第232号，1920年4月1日）21～26頁。

㈠

耶蘇教が支那に来つて殆んで何物も，支那に教へることが出来なかった。良心の投げる明るい光を追ふて真実に生きよと言つて見ても，それは陽明哲学に而かなかった。人間を尊重して人格を軽蔑するなどと説いてもそれは孟子の学説に似たものであつた。保羅を擔いで王者を重んじてどうせうといつても，論者の一篇に及ばないものであつた。神々を説いてもデモクラシイを喋つても，何を叫んでも古い支那には自国の過去に一切を持合せてゐて，何等の驚異を感ぜなかつた。支那は冬の田圃のやうでどんな古株も，そこらきんぢょにごろついてゐる。

国際主義は商が周に勢奪はれて後に，極めて実際的に発達した。無政府主義は老壯に明示せられてゐる。有国家の苦は公羊派の知り盡してゐるものである。共産制度は井田法として実施せられた。二十世紀文明は支那に向つてはどうしても遅走であると思ふ。

耶蘇教宣教師が支那に来つて，教理学説では到底支那人を感服させ得ないとを感じるのも無理ないことである。西洋物が支那文字に書直される時には，到底漢籍に及ぶ処の出来栄ある文章に

綴られない。拙い文章に成下つた書物は内容如何に拘らす支那人には有難く想はれない。無論その内容すら支那自らの過去に同一思想を見出し得るものである時に於て特にさうである。基督教神学教理が支那文字に飜訳せられないのは，多くの理由があらうけれども必ずこの辺にも據るところが多くはなからうか，膚色から風俗までも支那人と寸分違はぬまでに殆んど支那化してゐる回々教徒か，今も猶回々教の書物を，アラビア語で読んでゐるのは，漢譯すすると有難味が減るからでもあらうが，漢人に軽蔑せられるのが怖ろしいからでもあらう。

学説と思想のみではない。二十世紀文明の多くの事物は，支那を改造せしめ得なかつた。帽子の如きも支那では洋帽より何ほか便利な，わけて風荒い支那に適した支那帽がある。それは衛生的にも都合よく軽く出来てゐる。靴の如きも左右同形ではあるが，経済的なまた雨少い支那に都合よかりさうな品物がある。着物としても活動にも適し冬は涼しく夏は暖い支部服がある。家屋も日當よい支那風土に恰好のものがある。何もかも余程の西洋かぶれでない限り改造を要せないものが多い。

支那に於て宣教師の手にする鋤と鍬が，土着かない裡に苗が芽生え草が生ひ実が色着いて居つた。否もう古株になつてごろついてゐた。それは新らしく蒔れる種子の為めに邪魔になるとも肥料にならぬものであった。さうして宣教師は古い株をちよいちよいと手拾つて，もう新らしい種子を蒔き悩んだ［。］自らも古い株を嚙って腹を太らせてゐた。支那帽を冠り，支那靴を穿ち，支那服を纏ひ，支那家に住み，支那人のやうにのんそりのんそりと歩み乍ら，欠仲をしてあるきだした。支那に伝道に来つて，何のことはない全く伝道されてしまつた。さうして故国の大学に墨子だの揚子だのゝ哲学を紹介して，ドクトルに成済ますことになつた。さうして弱き者には弱き者の如くなりと保羅を笠に着て，せめてもの慰撫を感じてゐる。

㈡

宣教師が折角運び来つた聖書の評判が余に芳しくないのみか，着て来た自らの衣服も脱がねばならぬと気着いて，少しは困透（ママ）を感じた。さうして周囲をようく見廻した時に，ふと気着（ママ）いたことは，医療の布教であった。煎薬が何程の効験あるかを知らぬ彼達は，支那を伝道する前に先づメテカルミッションを興すことにした。基督の奇蹟を到底自ら施す丈けの信仰なき彼達は，基督の医療奇蹟を真似て洋薬を以つて支那人に奇蹟を施した。永い間伝へ来つた煎薬では到底医すことえなかつた病疾も，時々はあるといふので支那人は施薬を喜んだ。不治といふ不安致命と称する悲哀を救ふそこは宣教医達の附込み処であつた。序にいふ洋薬は必ずしも煎薬に優るものではないさうである。いつか長谷川敞氏は嚏の連発でお困りであつたが，あの病痛の如きは支那薬二三服でぐつと直切るさうである。

医療を用ゐて伝道の補佐とすることは，日本の天理金光稲荷諸教もして居られたさうであり。教祖基督もせられたことであるから異論もない。英語，結婚紹介，碁將碁雑多のものを用ゐての伝道の手助とする田舎伝道者のあること故に，決して宣教医があるからとて不思議はない。けれども少し受取れぬ事実が，其処此処にあるらしい。それは素人医の開業である。医術を学ばぬ宣教師が奥地に入込んで，医薬辞典と首引でどうにか施薬してゐることである。さうして愛は深けれど調剤謬つて人を殺すこともあると。

モルヒネ位支那を毒してゐるものは支那にはあるまい。阿片よりか何ほか支那人を悩してゐる。モルヒネの注射は銭湯に恟醉してゐるやうな陽気な気分を肉体に与へる。血脈を張拡げてのびの

びした心持を全身に盛る。その心持は到底不愉快なる人間世間に於ては容易に抱き得ぬものであるらしい。言へば人をして胡喋に乗って天界を翔るといふ楽境に入らしむるものだと，デカタン味の深い支那人にはモルヒネは深い深い魅力を有する。去年モルヒネの中毒に成つたものは，今年は麻袋に身を包み乍ら，小銭を門戸に乞ふてモルヒネを購ふといふ程に廃頽してゐる。中毒の者はモルヒネの力が肉体から衰へる時に悶へ苦しむのである。モルヒネを支那から驅逐する為めに，宣教師は随分努力をしてゐる。けれどもこのモルヒネ注射を支那人に教へたものは，その宣教師彼達自らであつた。素人宣教師が歯痛に泣くものにちよくら注射を一本，肚痛に苦しむものにちよいと一本，阿片中毒に藻騒いでゐるものにモルヒネ一匙といふ風にして，基督の慈愛の名の下に施薬をした。この無智なしかし愛ある努力が，支那人にモルヒネの快味を教へ着けて，今はどうするとも出来ない。印度の阿片畑は支那をお得意とする爲めに赤い黒い罌粟花を咲かせている。宣教師はこの罪を贖ふだけにでも，懸命にならねばなるまい。

昔から聖者が奇蹟を行へるまでに修行が積むと，別な誘惑が心の裡に渦巻うて，子を生んだ蛇のやうに無力なものになつてしまふ。宣教師達が化学的な醫療に依つて一種の奇蹟を施す時に，モルヒネ注射といふやうな誘惑が新らしく生れたのである。思へばこれもまた人生の皮肉ではあるまいか。

㈢

支那に於ける宣教師が，支那の古い文化を知りながらも，支那人をセコンダリ，クラツスの人間扱ひをしてゐることは隠れない事実である。支那人としては，このあたりで満足すべきだといふ調子である。例へば男女同席を今でも処々に於て拒んでゐる如きは，何といふ馬鹿々々しいことであらうか［。］汽車と電車すら，男女同席が行はれてゐるにも拘らず，教会が何故厚い壁で男女の席が仕切ってあるか，若しか男女同席なる為めに，教会が大入を呈し得なくつとも，芝居ではあるまいし，良かりさうなものだ。男女七歳不同席といふ宗教を伝道してゐるならば兎も角として私達は餘りに方便的な伝道には飽々せざるを得ぬ。妻妾相携へて，神エホバの前に艶を競ひ乍ら，アーメンといひ得るやうな教会を建てるよりか，寧ろ顔を覆ふて地に慟哭する方が何んぼか増である。よしや伝道が数を得なくともよい。矢張り一夫一妻の眞宗教を伝へて貰ひたいと思ふものは，私達のみではあるまい。

支那の大教会の如きは，日曜日礼拝の献金のみで優に経済的に独立して行ける教会もある。けれども実際に於ては何もかも宣教師もたれである。議論もなければ，意見も吐かず［,］懇篤なる宣教師の監理監督の下に，教会を建てゝゐる。相等な人格もあり。また信徒も多い。けれども依然として独立自営の精神に乏しい。近来は案外変挺な番狂がそここゝに見ゆる［。］例へばミッションスクールの女学生が女子解放論を提唱して宣教師から許可を得てる筈の，畜妾を否認したり。また男学生がデモクラシイの運動をおつ始めた如きは，確かに興味ある問題である。日本に於ても基督教會がデモクラシイを口にし乍らも，宣教師の言にのみ聞いた傾向があった。或ひは今それを何とかしやうといふ気運が向いてゐるかと考へる。日本に開かれる目曜学校世界大会に，若しも宣教師が一名でも日本に出掛けたならば，その宣教師には再び支那の国土を踏んで貰はぬと決議してゐる。題目が排日である丈けに一寸日本人には理解し難いが，宣教師をも排日の為めには假借せぬところ私達は支那黎明の微候を感ずる。

㈣

排日運動が軍国主義の日本に刄ふことであるにもせよ耶蘇教としては排外的な主張をもう時代遅れとして取扱はねばなるまい。排日もよからう，けれども耶蘇の名によって排日することは，私達の取らぬところである。飽くまで神の国を望んで今のこんがらがった国家と国家の，いがみ合の如きには頓着すべきでないと思ふ。けれども排日運動が耶蘇教徒の強い精神運動であるところには，私達は多大の感興を覚ゆる。支那人は古来団体運動者としては何時も失敗の歴史を持ってゐる［。］民族挙げて夷狄に当るといふやうな団体的な精神がない。儒教の如きもあれ位拡がりながら，団体生活に於ては何物も見られなかつた。景教の如きも団体として何等の結策もなかつた為めに，今日は何処にその形跡を止めないで只だ過去を表碑に依つて紀念せしめてゐるのみである。然るに団体として発達したものゝみは今も猶，存在をしてゐる。例へば回々教の如きはそれである。現支那の宗教としては耶蘇教と回教とが云といつても，宗教として勢力を有してゐる。それは何人も異存ないところであらうと信ずる。

排日を題目として支那耶蘇教徒が一斉に，団体的運動を起したところに，私達は大なる希望を有する。支那が団体として成立し行く日は，やがて支那復活の時である。社会の一員としても国民としても，利己的な喰物的な個人主義である為めに，どうも甘く行かなかった。若しも犠牲を理解し，大同に行つて，小異を捨つる団体的精神が支那人に生れて来たならば，支那い面白い国になるだらうと思ふ。

支那に来つて，耶蘇教が何物も支那に与へる事が，出来なかったとしても，只一つ，即ち精神的生命を基督伝に授け得たならば，それはもう結構なことである。教理と制度が支那に発達してあつたにもせよ，十字架は支那にはなかつた筈である。十字架の精紳それこそ支那人に与へるべき只一つの寶ではあるまいか。

モルヒネの教へた位は，この精神的生命を与へたことによって，罪赦るされるであらう。かくて排日運動に依つて漸く支那宣教師は世界にその百年の努力を認めらるゝに到ったと言ってよい。

（三月渤海湾に漂ふ船の甲板に頬杖ついて）

清水安三「果して日本基督教徒に支那伝道の使命ありや」（『基督教世界』第1926号，1920年9月30日）3～4頁。

一

支那伝道に興味を有する者は，日本にも甚だ少なくない。分けて軍人達の裡に最も熱誠あるものを見出す。彼達は多く耶蘇の何者たるかを，解しない全くの門外漢である。基督教に冷淡なるものに非ずんば，自ら耶蘇嫌ひであることを誇る者である。然り而して支那伝道の緊要を説くに於て，私共をして三舎を避けしむる。天下之を奇とせずむば，何をか奇とせむやである。

が，それは怪しむ可きではない。彼達は支那民衆懐柔の為めには，手段の是非を選ばない。隣家の火事（排日）を潰す為めには，自家の小便器を汲み出すに何の差支あらむや位に考へてゐる。偶々小便汁と思つて引掛けたものが，何ぞ知らん石油であつたが為めに飛んでもないことにならぬとも限らぬ。彼達の無智は時々怪我の功名を贏ち得るけれども，多くの場合に於て，山師的宗教家を誘惑し，堕落せしめるに過ぎぬ。

軍人達の無智を早飲み込んで，喋々と支那伝道を説いて，憂国の士めいた口調を剥出し，調子に乗るとは慎むべきことであるらしい。軍人達は職掌柄愛国心に就いては，相当の理解と趣味と

を持合せてゐる。彼達とても自分を支那国民の位置に置き変へて考へて，日本国家御用の宗教が信ぜられるか，られぬか位の心持は，ようく解るのである。無智は無智丈けの判断を，最も確実にする。で，試みに基督教を少しでも聞噛ぢつた軍人に接して見るがよい［。］彼等は国家政策としての宗教布教に，飽くまで反対する。軍人が基督教徒たり得るか否かは，本論に遠い題目であるとしても，耶蘇を知らない軍人の応援を得て，支那伝道をする程に，基督教会は山師根生に成切つては居らぬ筈である。支那青年は，そういふ教会堂が建設せられむことを待望してゐる。それは焼打ちせむが為めである。

二

支那伝道に対する興味は，愛国心と正比例する。憂国の実業家の裡に，支那伝道を面白いとなすものがある。彼達は耶蘇を知らぬことに於て，軍人に劣らぬものである。

原来日本人は支那人の商敵ではない［。］日本雑貨を日商より購ふは，支那商から買ふよりか，三割方の高価を摑む。三井，大倉の如きも，缺算が多く，到底投資の利廻りを豊富に取り得ぬ。然らば如何にして在支商賈は立働くか。研究すれば案外なる調査を得る。日本人が支那人と競争する時は，手腕に拠らずして利権に依り，自己の力量に憑らずして国家の後援を信頼する。そうして漸くにして活路を見出してゐる。一本立でやつてゐるものは，売笑婦と極めて少数の商賈である。各所に根拠を礎てゐる所謂功成者を，心当つて見るならば，必ず国家の利権を乱用することに依つて，富を成したものか，然らずば，賠償金を何かの機会に貪り取つたものである。国家を背景として成功するやうでは，到底排日排貨を吃せないでは居られないであらう。

それは兎も角として，国家の恩恵に預つて漸く支那で仕事の出来る日本実業家が，国家の為めに貢献することであれば，耶蘇教でも何んでも構はぬ位の広い量見があるのは，ありそうなことであらねばならぬ。そこがまた山師的宗教家の睨み所である。大谷光瑞等の思ひ着くまでもなく，基督教会に於ても，真面目の人にして一寸ばかり手出して見たことがないではない。神はなくてならぬものを与へ給ふが，なくてもあつてもよいものは，断じて与へ給はぬ実業家の懐を当込んで神の懐を探らない者が，失望と落胆に悲しむことは必定である。

が，前にも言つた如くに，支那への投資から上る利金は，極めて貧弱であるから，憂国実業家連は口で云ふ程には思ひ切りよくはない。同仁会，同文会の如き団体が，総裁として宮殿下を煩はし，将軍の古いのを担いでゐる割合には，金集まりが悪い。そうして支那に於ける彼達の事業は貧弱である。おまけに苦辛して建てた学校に，一名も入学者がない。雨晒の為めに建てた学校としても，規模頗る大ならずである。何んしろ同仁病院の設計調査に来つた会長が，帰途八八艦隊を目論見乍ら帰るやうでは，駄目であると思ひもする。

で，耶蘇の為めに献げられるお金の外に，心当にするお金を持たぬとは，支那伝道の為めに先づ堅むべき決心である。何とならば愛国伝道を売物にして軍人に拠るは面白からず，実業家に頼るは案外獲物少ないからである。

三

政府の応援を受くるは，更によくない芸当である。政府に使はれないまでも，政府をこきつかふつもりだ等と吹くものもある。猫の目の如く変る日本政府を，余りに信頼し過ぎると，やがて突つぱなされ，揚子江へ土左衛門を決め込まねばならぬ。段祺瑞の如き豪傑ですら，日本政府に裏切られて二進も三進もならなくなつてゐるではないか。政府等に目腐り金を頂戴して伝道する

位ならば，我等は最初から伝道者にならなかつた筈である。寧ろ志しを世俗に得て，乃公自ら相に任じて，三千の生臭牧師を叱咤して，支那伝道をやらせるべく，法科大学にでも入学した筈である。何ぞ家より放逐勘当同然に遇せられて，貧乏に甘んじて同志社に入りしが，薩張解らなくなる。

笑談は偖て置いて，政府の尽力に依つて，支那伝道を為すことに依つて，次の三点が気に懸る。

一，斯る宗教を迎へる国民があらうか，あつても変梃なものしか，迎へて呉れまいかと案ずる。

二，日本人は宣教師の背後に，英米の国家があると思つてゐる。それを我等が裏書してはならぬ。

三，政府の応援を用ゐて，白人宣教師の事業を混ぜ返すことは考へ物である。朝鮮に於ける宣教師達は少からず組合教会の伝道に依つて排日感情を激烈にしてゐると聞きもする。朝鮮に在つては相撲の団扇は，公平に見て組合教会の方に挙がるであらうが，支那に於ては怎うかと思ふ。（続く）

清水安三「新孔子論」（『生命』第2号，1920年10月1日）22～30頁。

在北京　清水安三

『彼の生涯と時代』　孔は性，名は丘，字は仲尼，魯人にして，西暦紀元前五百五十一年，周の靈王二十一年に生れ，周の敬王四十年，西暦紀元前四百九十九年に死んだ。

孔子は実行的政治家であつた。Politicianと謂へば策士めいてるが，政は正なり，故に政治家は，正しく治める者なりとでも言へば，なある程と思へる。そこで横文字の作者よりか縦文字の作者の方がえらいとでも言へば支那人は喜ばう。彼曾て魯の司空（財務官）となり，また司寇（司法官）を為し，魯定公十年司寇として定公の儐相となって，齊侯と夾谷に会見して魯の為めに屢々争ふた。後自ら政策の行はれざるを嘆じて，官を去って，諸国遊歴の途に上った。蓋し伝道行詰って洋行する聖の類か。国外に在ること十三年，自己の道を行ふの機に遇はず，六十八歳に到って，帰魯，專ら著述事業に従ひ，暇を余せば子弟を養ふて倦まなかった。古代の官書を删成して尚書を得，古今の詩歌を删存して三百余篇を集め，礼書楽書校訂した。

孔子の晩年は周易を喜ぶこと厚く，周易六十四條卦辞三百八十四條爻辞を得て，六十四條卦象伝，三百八十四條爻伝六十四條象辞，を拵へた。易書猶多しと雖後世の加筆にして依るを得ない。詩書礼学の外に春秋を作ったと謂ふも，述而不作とあれば，創作に非ずして，魯国史記に據ったものである。無論詩書礼楽の書もオリヂナルに非して，删偏に過ぎぬ。

この外彼の著作と謂はるゝもの少くない。其実にて後世の偽作である。例せば孝経は曾子の思想を盛れるもので，信據するに足らぬ。寧ろ論語は割合に信用し得る。いふまでもなく。論語をその儘信頼するとは誤謬である。が，論語の裡から曾子思想と有子を見分けて，孔子教の真相を刳り出せば案外本物を握み出すことが能きる。先づ孔子研究の文献としては，論語は土台とすべきもの，易伝春秋は参考書であらねばならぬ。

孔子の時代を孟子が言つてる。「邪説暴行有作，臣弑其君者有之。子弑其父者有之」と。故に孔子は邪説暴行の世に生れたと言つて宜い。春秋二百十年間，弑君三十六回，殺父は楚の太子商臣の如き，数ふに遑ない。国を竊む者に齊の田氏晋の六卿，魯の三家があつた。魯の文姜，陳の夏姫衛の南子彌子瑕等の醜行は，そこにも此処にも演ぜられた。現世紀はその時代に酷似して，

歴史は依然繰返へしてゐる。

邪説邪教とは孔子に取て，邪悪なる教説であつた。其癖今日と雖，何れが邪悪であつたか，薩張解らぬ。兎も角春秋時代には，三学派あつた。㈠現在の乱世を，過去の周代善政を鑑みて，改造せむと考へたのが，孔教であった。㈡過激思想が孔教に対立してゐた。社会の破壊を考へたのが老子であった。老子は戦国を拾得して，一時国家の復活を見るも何時か必ず再び，乱世は来るべしと思考して，孔教を嘲った彼は虚無思想の上に立て，革命を人間の復古主義の上に呼称した。道教と同一思想には非ずと雖，同じく天地無厚不仁を力調したる鄧析は，激烈なる政治思想を抱いたるが為めに竹刑に処せられて死した。確に彼は老子につぐところの革命家であつた。秘密結社を堅めて，魯国を荒したる少正卯は司寇孔子の為めに，首切られた。㈢厭世論者は乱世の腐敗に心碎れて，寧ろ下等窮民生活に入て世事に預るを肯せず，寧ろ隠遁に生きたるものに，晨門，荷蕢，丈人，長沮桀溺等の人物があつた。論語には彼達の名が戴ってゐる。これ等の三派は何れも改造を思ふもの，革命に志す者であつた処に於て同類同種であった。互に他を邪説として，避け相讓らなかった。現代に於ても時潮を憤慨せる帝政論者もあれば，竊に破壊を企つる無政府主義もあり，山寺指して逃げ出すトルストイも居る。

『孔教の基礎』　孔子は凡ての学説を，易の上に礎ゑた［。］基督教の教理が，結極は信仰の上に礎ゑられると一般である［。］易学を孔教の附属物の如く見るならば，それは頓でもない謬説に陥る。

臣弑其君，子弑其父，非一朝一夕之故，其所由来者漸矣，由辨之不早辨也。易曰，「履霜堅冰至」蓋言願也（易文言）［。］凡そ社会国家の変化一切は，一朝一夕の故に成るものではない。頭が痛んで医が来り，霜が降って冰るに至る如く必ず，その由るところがあつて起る。萬象悉く易に依て現ずるのである［。］易は古来雑多の学究の講ずる所である。その著書も極めて多く，荷牛充棟数ひ得ぬ。けれども易を明白に設くものは殆んど無い。

易経には三つの根本的観念，易，象，辞がある。易は変の意であって，天地萬物の変化を言ふ。天地萬物，皆時々刻々変化あつて，滔々流れ行く河水の如く，昼夜を別たず流れ逝く，これが天地の実際である。この変化舍まぬ現象は何に因るか，そは陰陽の二原力の作用に過ぎない。陰陽を ¦ | の符號を以で表示せば，八卦六十四卦悉く天地の変易を示す所の公式を得る。八卦六十四卦に依れば，過去幾代を逆索し，将来幾世を推算することを得る。

象也者象也と繫辞伝にある。この一句必ず易を知る鍵であらねばならぬ。即ち変遷進化，森羅萬象，一切の易は象の作用也といふのである。先づ象この字を研究するに，象は繫辞伝に「象也者像也」とある。像字是後人所改。古無像と曰ふ。象字は古代は「相」字と同意に用ゐられた。説文は相省視也从月从木と解説してゐる。繫辞伝に又言ふに，在天成象，在地成形，変化見矣と。老子が物生而後有象といふたに反論して象生而後有物と孔子は説いてゐる。孔子の易は象であって，象は像であつた。即ち変化の奥には，一個犯すべからざる像＝手本があって，それに依つて一切の現象が動く。太始に道あり道はすなはち象である。象には大別して二種ある。天然無機に現るゝを「現象」といふ。現象とは天が象を垂れ吉凶を見す，聖人之に則る。人界に起つて現るを意象又は観念といふ。例へば ¦¦ ¦¦ ¦¦ ¦¦ は山下出泉の意象である。山の下なる泉は水源となる。そこでこれは子供の教育を指示するものと見る。

辞は説文に「辞訟也」とある訟は説である。朱駿聲には「分争辯訟謂之辞」とある。象は

Concept であつて辞は judgment である。易学に於ける辞は吉凶を表す。象は天下の賾にして辞は天下の動である。象は模範であって，辞はその動作である。例へて説明するに，䷎謙亨君子有終とある。この卦を見るに吉凶は明かになつて居らぬ。第一の爻は陰爻であって，謙卦の最下層は謙と謂へば謙と謂ひ得るが，何んなく物足らぬ。この卦では吉凶をまだよく表して居らぬ。そこで初六，謙謙君子，用涉大川，吉。と辞が加へて居ることに依つてはっきり頭に吉を感ずるを得る。

孔教の基礎は易経哲学に在って，易学には三個の観念あって，易，象，辞，の三つである。易は萬物変動不窮を表示し社会礼俗治乱凡て原因するところあつて変遷することを象に於て説き，辞を以て吉凶の標準を定めて居る。

『孔子の主義』　孔子は正名主義を奉じた。名を重んずる，これが彼の凡ての主張であつた。論語に

子路曰「衛君待子而為政子將奚先」

子曰「必也正名乎」

子日「野哉由也君子於其所不知，蓋闕如也，名不正，則言不順。言不順則事不成。事不成，則礼楽不興。則刑罰不中，則民無所措手足故君子名之必可言也，言之必可行也。君子於其言，無所苟而已矣

とある。正名は馬融の注には百事之名を正すなりとある。

齊景公問於政孔子，孔子對臼「君君臣臣父父子子」

公曰「善哉信如君不君，臣不臣。父不父，子不子，難有粟吾得而食諸」

政者正也，即ち名を正しくするところに，政治の理想を礎ゑた。この正名主義は悉く易学を押及したるものである。易学を根本的道理として，正名主義を割出した。夫易聖人之所以極深而研幾也，唯深也，故能通天下之志，唯幾也，故能成下之務とあるから，隠れて未だ現はれないところの「深」いものは，「幾」を知れば解る。幾者動之微吉凶之先見者也，故に彼は一切をその動機に於て判断して，吉凶善悪を其動機に標準定めた。

易学に依るに易者也象也であって，變遷進化の動機は象に依る。象は像であつて，実際に現れば名に外ない。君が君たれば臣は臣たるべく，其名分に依るべきである。季氏が八佾庭に舞ふは是忍ぶを得ないのである。季氏帝王の舞を用ゐるは，名に適はしくない。萬物変遷凡て象に由らねばならぬ。一切は一つの摸型―象―に依て現象せねばならぬ。この原則に依て正名主義は根底ある教理となる。であるから孔子理想主義であったといふよりか，形式主義であつたといふた方が正鵠を得てる。

辞は如何といふに，正名主義の吉凶利害の標準であった。即ち褒貶の判断，善悪の標示を見るは辞に依つた。「春秋」には弑君弑父の運命を，明かにして，正名主義を実在に顕してある。孔子の春秋左伝に現るゝ，人傑の盛哀何れか一としてこの吉凶を名よ原因著けられなかった者はなかった。司馬遷の史記の如きも正名主義から一歩も出ずるを得なかつた。

正名主義の支那文化に及したる影響は可成大きい。名字を重ずるが故に，文字言語をはつきりせねばならぬ。君子於其言無所苟而已矣であって，言語文字の使分は最も大切であった［。］そこで訓姑学，文字学（説文）が盛んになった。支那は文字の国であるといふのは其因る所古い。段旗瑞が国定軍＝官軍＝の名を得る為めに立遅れて失敗の一因を招いたのも，正名に囚れたから

である。日本の如きでは名は怎うでもよい，実さへあればと称して，白頭の老伝道師が按手礼の試験を後廻しにしてゐるのもあるが，支那では名を得ることを最も重んずる正名主義はまた史学の上に，少からず影響を及して，歴史をして事実に即せしめず，反て結論から逆に書き直す様な編集法が生れた。名分を守つた者の吉運として，名分に逆つた者を凶運に帰せしめ，正統を明かにすることが史学の通則となってしまつた。故に支那史にはヨブの如き，義人の不運を見ることが能きない。悲劇は義人の家庭にも勃発し，苦杯は義者の為めにも盛らるゝ。そこに人知の知らぬ摂理がある，正名主義の立場に，支那史学は建設せられた為めに，主観的歴史のみあって，唯物的歴史がない。此の如く正名主義は文字学と歴史学とに大なる影響を与へた。

正名主義は法家が正名論を取り，儒家が名学を取て後世の哲学の一派を為したが，これが反動としては「名無実，実無名」と稱する揚墨学が起った，揚墨新論は後日稿を改める心算である。

『孔子道徳論』　一以貫之そこに孔子の道徳の根本があつた。賜也汝以豫爲多学而識之者与。対曰然非与。曰非也豫一以貫之之を魏の何晏は繫辞伝の文を引証して，義有元，事有会。天下殊塗而同帰，百慮而一致。知其元，則衆善挙矣。故不待学而一知之と疏注を加へてゐる。韓康伯の注に依ると苟識其要，不在博求。一以貫之，不盧而盡矣。論語には猶書いてある。

子曰参乎吾道一以貫之。

曾子曰唯。

子出門人問曰何謂也

曾子曰夫子之道忠恕而已矣。

「一以貫之」は何晏の疏注する如く天地宇宙，萬物千変萬化森羅萬家，一切は天下之至賾にして，天下之至動でおる。天地間熟視せば，その統一せる一則がある。以一持萬そこに孔子のキャテゴリイがあつた。箒を見る。穂先はばらばらに混雑せるが，統ぶる所は一幹である。道徳は数目多くして，これを悉く知り皆行ふは甚だ忙しい様である。けれどもその徳目の帯を捕へて一貫する精神あらば，道徳は一本筋であつて簡明してゐる。基督教では凡ての徳の帯は愛であるが，孔教では忠恕にあった。

大戴礼三朝記に，知忠必知中，知中必知恕，知恕必知外とある。章太炎の説に心能推度日恕，周以察物日忠。故夫圓一以知十，挙一隅而以三隅反者，恕之事也とある。忠恕は以心度物といふところにあつて infevence に過ぎない。恕すとか，忠義とかいふ意味ではなく，天地間一を以て貫くところの像が，動くそれが忠恕である。

「其恕手。已所不欲，勿施於人」とある如く

一と推して十を知るそれが忠恕である。「所悪於上，母（ママ）以使下，所求乎予以事父。老吾老以及人之老。推し及してそこに一切の道徳を知る，それが忠恕である。自分から推して他の欲するを会得する，この忠恕論は則ち一以貫之の主張に合する。良心論，陽明学の如きも推已及人の説に淵源してゐることは疑ない。

忠恕を「已所不欲，勿施於人」と説くに従て，患恕と「仁」とは密接の関係を有する，孔子の仁を説くは，その忠恕を講ずるに，優るとも劣らぬ力調を以てした。孔子の仁は差別の愛であって，墨子や基督の如く，階級を超越したる愛を説いたのではない。

仲弓問仁，子曰，「出門如見大賓，使民如承大祭，已所欲勿欲於人，在邦無怨，在家無怨」

樊遅問仁子曰「居処恭，執事敬，与人忠」

この文に依ても仁と忠恕との関係が解る，恕に解くにも已の欲せざる所を人いに施す勿れといひ，仁を説くにも同一言句を用ゐてゐる。

さて孟子の言に「仁也者人也」とある，また中庸に「仁者人也」と書いてる，蔡元培の中国倫理史に依ると，仁を統攝諸徳，完成人格之名と断じてゐる。論語には子路との問答として

若蔵武仲之知，公綽之不欲，下荘子之勇，再求之藝之藝，文之以禮樂，亦可以爲成人矣。

とある。内村氏の真剣，植村氏の態度，本多氏の手腕，海老名氏の雄辨，澤山氏の信仰，そこへ加へて錦織氏のお伽上手と来ては可以爲成仁であるといふ。究竟するところ「萬能」「完成人格」である。仁とは簡単なる愛ではない。結極は人らしき人の徳である。この仁を備へて完ふせる者を君子といつた。

君千而不仁者矣夫，未有小人而仁者也

とあるは如何といふに，原来は君子といへば，富貴の上流者であつたから，孔子はその富貴人と仁者と区別して云ったのである。即ち従来の字「君子」を洗禮して，孔子一流の有意義なるテクニカルタームを作ったのである。それは宮川牧師の紳士論にも同一の跡がある。君子は孔子の模範人物の抽象的名目である。

「君子」,「仁」,「忠恕」,「一貫」エキスプレツシヨンは種々であっても，そこに糸を紡ぐが如く整然としてゐるではないか。

君子喻於義，小人喩於利

君子の名を重んじ，君子の名を正すところに，一切の政治も，社会の秩序も，道徳もあつた。謂ふ所のそれが正名主義に外ない。されば孔子は易学に依り，主義を立て，道徳を築いたといふ議論が成立するのである。従て孔教を宗教に非ずとなし，只一片の道徳学となすは，山上の垂訓にのみ根據して，基督教の価値を論ずるトルストイ同轍に陥る。孔教は実に一個の宗教であって，儒者の如くに，徳目を陳列して道徳教を立つる者を異端とする。

支那では迷信に依らねば戦争には勝てぬ。李自成の乱，団匪の変，段の失脚凡そ，一種の謠言に起つて，蜚語が最後の勝利を得させてゐる。飽迄も理論に依つて一派の学を立つることは群集を動かし得ぬ。論争と同じく，信の上に立つ者は勝つ。孔教が易の上に立ちしは，結果から見ても首肯し易い。当時孔教のみならず，墨学も大同，兼愛（世界主義，平等主義）の説を宗激の上に立てゝゐる。孔子は宗数を排した。知らずや，其奉ぜし易学は。一種の宗数ではあらざるかを。近来若き支那は，大同兼愛に奔つて，唯物主義に社会を改造せしむと意気卷いてゐるが，矢張信仰の上に大同，兼愛を建設せねば，到底大を為し得ないであらう。

（八月十五日稿了，胡適之の学に負ふ）

清水安三「果して日本基督教徒に支那伝道の使命ありや」（『基督教世界』第1928号，1920年10月14日）3～4頁。

四

軍人，実業家，政府の応援なくして支那伝道が出来ないものであれば，寧ろせない方が優つてゐる。しても焼打せられるのみである。耶蘇の為めに磔殺せられるものは幸福である。けれども孫々（ママ）して居つて焼打せられるとは，ユダが首を吊した程のことに過ぎない。基督を売れば，首を吊すものと運命着いてゐる。

然らば支那伝道は，如何にして為すべきであるか。言ふまでもなく，支那伝道は金銭に依つて出来るものではない。支那伝道の使命の自覚，只この精神の上に，支那伝道は出発点を見出す［。］支那伝道が日本基督教徒の双肩に懸りてゐるものとせば，日本母教会の実力如何は問題にならぬ。パウロが異邦伝道を企てたる時は，エルサレム教会に有余るお金があつた訳ではなかつた。寧ろパウロは異邦伝道に依つて，エルサレム教会を富しめた。伝道は金銭に依るものに非ずして，精神に依るものである。精神を滅茶苦茶に腐らせて，金銭を集めても支那伝道は出来るものでは断じてない。

日本基督教会の精神的充溢は，支那伝道に取つて何よりものことである。充溢せるものは，自然に溢れて支那にまで流れる筈である。そこに日本の教会にあつて支那にないものを挙げて，私共は一層使命の感を深くせねばならぬ。

一，自由自治の教会的気分

二，迷信的信仰の検討

三，偏狭なる愛国心の缺乏

その一二は日本の教会，分けて組合教会に旺盛であつて，支那基督教会には皆目ない。三は一寸面白い現象である。日本では新島襄を始め，雑多の愛国的宗教者が輩出して，必死になつて基督教と日本国体が矛盾せないことを説き廻つた。戦闘的基督教精神が，常に弁解的精神に変色して，受太刀たるを免れ得なかつた。支那に於ては一寸考へた丈けでも，基督教愛国心といふやうな俗味の多分に含まれる精神が足りない。特長は同時に短所であると謂ふが，何時の場合でも一様である。支那基督教徒に独立自治の精神がないことは，やがて，愛国心も少いことを意味する。「愛国心と矛盾するならば，耶蘇を棄て，国家を守る」といふ忠勇無双なる日本基督教徒が，支那伝道を為せば必ず，支那人を愛国者に仕立て，結果排日慷慨の志士を産み得るであらう。尤も募金の場合には愛国の至誠君国に捧げて席を温めずといふ態度を探り，支那に来つてはけろりと愛国心を忘れて，「耶蘇は国家の問題には，民衆を失望させる程に風馬牛であつた。諸君支那人は国家が如何に侵略せられるとも，そこは神旨に任せて，霊魂の亡びざる為めに，祈らねばならぬ」とでも布教したならば，内には愛国者となり外には超国家の第一義の宣伝車となり□やう。

愛国的基督教は，王に従へと宣べたパウロの宗教であつて，国家問題に超越せしは耶蘇であつた。愛国的基督教は大乗であつて，超国家の基督教は小乗であると思ふ。大乗に依つて募金して，小乗に依つて支那民衆を懐柔せむとする。何といふ忙しい早業ではあるまいか。

五

日本から帰朝せる留学生は，揃ひも揃つて皆が皆まで，愛国排日者流であるとは，嘘の様な事実である。日本の教育は支那留学生を，愛国者に仕立てる［。］近来留学生が減数して，日本では心配してゐるそうだが，そう緊要なことではあるまい。若も支那に排日思想があるならば，それは日本仕込のものに外ならぬ。

日本は日本人を愛国者に育てむが為め支那人をも愛国者に仕立てゝしまつた。自国民丈けを勇悍にせむとしてもそれは出来ないことであつた。自分の家の子供に，おやつを呉れて，勢隣家の子供にもおやつを分けねばならぬ破目に陥つた。雪隠で饅頭を食へば，弟に半分呉れない済むけれども，普通の場所で食ば直ぐねだられる。日本教育は，日本人を強く武々しく造る為めに，支那人，朝鮮人まで元気にしてしまつた。何といふ皮肉であらう。

基督教会も同轍を踏むに相違ない。独立自治の精神を鼓吹する為めに，日本人が支那伝道をやる使命があるだの迷信的信仰の検討を教へてやる必要があるのだ。愛国心を鼓吹してやる使命はないかだのと，頓でもない事に勢込むならば，必ずや日本教育者と，同轍を踏み，排日の声をのみ徒に高くし，東洋平和を害するに違ひない。

日本基督教徒は果して，支那伝道を為すの使命を有せるか。ごたごたした世間並なる使命に於て，毛頭伝道する必要を認めぬ。国家的利益の上に立つて伝道することは，有害無意味である。傲慢なる優勝者の根性で，伝道することも神を恐れぬ仕業である。只，只実に自らは取るに足らぬ糞土の如きものであるけれども，耶蘇を知れる喜びを，支那人にも分ちたい，その貧しい心持に浮んだ伝道心に於てのみ，支那伝道の使命が明かになる。国を異にせることには何の興味もなく，只隣人であることに感興を抱いて，耶蘇の律の如く，自らを愛する如く，愛するに過ぎない。誰の応援も多く心頼まぬ。只神を信じて自らを潔め乍ら，支那人を隣人とする這ういふ伝道者が居れば，国と国とは必ず平和を日々に増すであらう。（九月十日）

清水安三「北京に於ける耶蘇教」（丸山昏迷編『北京』丸山幸一郎，1921年3月25日）**422～439頁。**

支那に於ける耶蘇教

支那研究の資料として，外人事業の調査を重要視するのは日本近来の傾向である。果して多くの人々が思ふ程に重要なるものだか甚だ疑問を抱かざるを得ぬが，知りたい人々もあらうからざつと書いて置く。

全支那に入つてゐる新教の宣教師は約六千名である，この中には男子は二千名しか居らぬといふのは宣教師の女房も女宣教師として加算せられてゐるからである，彼等の生活程度は月額三百弗程度であつて子供があれば一人に三十弗といふ具合に支給せられてゐる。その喋る支那語は全く手に入つたものであつて学問も相当にある。彼等は大学を出て神学校を卒つて来たるものである。その人格に於ても日本に居る宣教師と優るとも劣らぬ。

これ等の宣教師の下に活動せる支那人教役者は一萬八千名で信徒は五十二萬人ある。その教会に献金する銀額六十萬元であるから馬鹿にならぬ。日本人の中には西洋人は金で人を釣つてゐる如く思ふが彼等支那信徒とても受くるより与ふるは幸なり位のことは知りもし云ひもしてゐる。

教会は三千個処あつて如何なる山間僻地にも教会堂の建設しあるを見る。割合に団結力は鞏固であつて自給独立の教会が大多数を占めてゐる。これ等の教会は五十二派の教派に分かれてゐるが布教区域を定めてやつてゐるから相争ふといふことがない。最も古くから宣伝してゐるものは倫敦伝道会であつて一千八百三十二年ロバートモリソンが広東に来航して支那研究及び伝道に従ふたことに始つてゐる。有名な宣教師ウイリアムテラー等の活動に依つて未だ百年に充たずして今日の如き成績を挙げた。今日では回教と並立せられる程にまで至つたことは先づ成功であらう。マスクミユラーに依れば回教と基督教は殆ど同一なるものであるそうだから支那に於ては宗教として民心に響くものが両教にあるらしい。

宣伝事業に伴ふて教育事業医療事業，感化慈善事業もまた熱誠なる精神と多額の経費を以て経営せられて居る。先づ教育事業を見るに外人教員一千名余支那人教員男四千五百女二千が育英に従事してゐる。学校の種類は小学校四千五百，生徒数九萬七千，中等学校数四百八十，女学生一千二百，男学生一萬二千，医学校百八十，医学生一萬余，大学及専門学校三十八，男学生二千八

百，女学生二百五十，師範学校数四十，学生一千，神学校百四十三，学生三千五百，その普及せることと設備の整頓せることに於て決して国立諸学校に劣らぬ。で支那の教育の半は外人の手によつて成つてゐるといつても敢て暴言ではあるまい。

医療事業を観察するに外人医師男子一百，女子百五十あつて，外に外人看護婦百五十を算する。支那人医師百名，助手一千五百，支那人看護婦四百，医院の建築物三百，一年間に収容する患者二十一萬，その多くは施療である。各地医師と土民との情誼は厚く，命の恩人として神の如くに仰がれてゐる。昨年中国宣医会が出来て全国的に統一せられるやうになつた，で英米仏丁独の各教派の共同事業になつた訳である。独り日本の同仁医院のみが聯絡してゐないやうである。

孤児院の数は三十八孤児二千を収容してゐる。盲唖院は各省に一個宛を設立してあるが無論外人の補助に依つて建つてゐるものである。以上述べたところは支那全土に於ける新教の概況であるが旧教は如何なる教勢を有してゐるかといふに是亦更に大なる勢力を有して我等を驚かするのがある。

旧教には天主教ニコライ等があつて古い歴史を有する，古い話では景教が支那に伝はつて処々に十字寺を建てゝゐたことが歴史に見える。長安に於ける景教碑は既に世に名高く又北京の西方房山県十字寺にも其の跡を残してゐる［。］十四世紀以来ロマ，カソリツク教は大陸を縦断して伝来した。十世紀の半頃蒙古に二名の僧が来つて聖書を蒙古語に訳し，伝道に勤めたがその成果はそう大きくはなかつた。寧ろフランシスロヨラ，ザビエーが南方から来航して布教したのが今日の旧教の基礎となつた。従つて南方に濃く北方に淡いやうであるが北方と雖もその教勢は新教の及ぶところではない。宣教師の多くは仏国人である［。］皆広大なる土地を所有しまた借家を所有して潤沢なる伝道資金を持つてゐる。ビシヨツプ（監督）は五十名欧州人の祭司は一千五百名，支那人祭司七百五十名（ママ）（信徒二十萬按手を受けて伝道するもの数千ある。その経営する学校めいた孤児院は極めて多く，教徒は必ずその教会に属する学校に子弟を入学せしめる。それは恰も回教徒が自らその教徒の子弟を教育せると同じである。

宣教師は普仏戦後に於て仏国が敗北せしよりこの方，本国の国産を盛んならしむるために，本国から衣服飲料その他を物品にて支給せられ生活費は六七十弗である。英米の宣教師が贅沢なる邸宅を構へ充分に文化生活を味はい得るに比して，旧教徒の宣教師は支那人と共に居住し苦力列車で旅行し修道院の忍苦生活を棄てない。宣教師は童男童女であつて一種の服装をなしてゐる。その教会は財産を多く有し無産者に職を与へ資本を提供して，今日では最も堅固なる団体を成してゐる。信徒達は金銭を遠方に送る時にも，司祭に之を託し司祭の証を得て之を先方に送れば，到る処で他の司祭より受取るを得るといふ。故にそれが兌換業に似たる仕事にもなつてゐる。銀行業が発達せぬところに生まれそうな宣教師の仕事である。日本人はこれを見て宣教師が商売気あるものの如く思惟して俗物扱ひに言ひ立てる。現状の支那では自ら宣教師を信用すること他よりも厚いのだから，遂に純宗教家が色々の別業を生むやうになるのであらう。奥地へ行くと外国人旅行者の宿を引受けたり本国商人のサンプルを陳列して商人に便宜を与へてゐるのを見る。

彼等の所有する土地財産敷地は，凡て支那政府の手の及ばぬもので無論無税である，近来日本商人の借りてる家を買受けて法外の家賃を要求したり立退を求むるものもあるそうだが若しそうであつたら天罰を免れえまい。

一，北京に於ける耶蘇教会

北京に入れる耶蘇教会の教派と，其宣教師の数を示せば

倫敦伝道会	英人八名
公理会（アメリカンボルド）	米人十五名
美以美会（メソジスト）	米人二十四名
聯合メソジスト	英人二名
長老会	米人十一名
安立甘会	英人十五名
デンマルクルツテル教会	丁人六名
インデペンデント	英米人三名
内地会	米人一名
青年会	米人十三名
救世軍	英人九名

の如くである。其信徒は一萬五千名，就中美以美，倫敦会は最も教勢盛んである。

教会を見物して歩くことは，考物で信徒は大層迷惑する。といふのは説教中にどやどやと入つて又出て行く素見の観察者は，信徒の礼拝気分をまるで害してしまふ。何時も支那人牧師のこぼすことは，日本人がスパイ的に来聴して，支那語の稽古旁々聞いてゐる。で会堂の入口で銅十枚を献金せしめられたが，窰子で支那語を稽古することを思へば，安いものさなどいつてゐたと立腹してゐた信者にも遭つた。そんなに嫌れてまで巡礼見物をせないでもよいやうに，こゝにざつと書いて置く。見ないで見た振りしたいものの御参考にもならう。

【美以美会】崇文門の北東側に，美以美教会がある。凡そ北京の教会は学校と同所にある。門を入つて直ぐ左に大礼拝堂がある。日本にはこれ丈け大きな教会堂がない。集る者は学生，その卒業生，信徒である。毎日曜日朝十時から日曜学校が開かれ，少年少女。学生，大人老人等が数十組に分れてバイブルを研究する。午前十一時から荘厳なる礼拝が開かれる。集まるもの千三百から二千名である。

教会堂の前を東すると，両側に外人教師の邸宅が森林の中に，小ぢんまりと建つてゐる。更に東するとそこには燕京大学がある。是れ一千八百八十三年十月にローリー氏に依つて建てられたものでゐる。現在米人教師十八名，支那人教師二十名を有して滙文中学，滙文小学，滙文幼稚園，滙文青年会を有する。大学中学は四ケ年を修業年限としてゐる。現今は宏壮なる校舎と広大なる体操場を有して大々的に教育をしてゐるが，最初はローリー氏夫妻が四五の子を集めて造つた学房に過ぎなかつた。義和団の変に損害を受けたが反つてその償金として二十萬坪を使用する事を許るされて，悪運を幸転し得た。北京には十数個の淮文小学校を有してその出身者を，滙文中学校に収容して居る。燕京大学 Peking University はその総称である。

【倫敦会】東単牌楼を北行すると左側に，中華基督教会を見る。中国人自らが設立する教会で西洋人と関係がない。英文夜学校と小学校とを経営してゐる。日曜日には二百名の信徒が集る。序に言ふ，阜城門裡白塔寺の東側に，西堂があつてそこに倫敦会の本部がある。それには一千名の信徒が集つて，萃文中学，萃文女学校が建つてる。学生は合せて四百五十名である。

【協和医学校】中華教会の前には，新らしい邸宅が建てゐる。之はロツクフエラー医院の医師が住む家である。新開路を東すると右側に協和医院があつて，中華教会の南側にはその医学校が

ある。学生男女二百名を有する。一千九百六年二月英人医師ロツクハルト氏に依て開設せられ，英米独伊の医師が之を輔佐して，今日に至つたものである。西太后及び支那大官の寄附に依て漸次拡張せられた。原来は倫敦会の経営するところであつたが，米人ロツクフエラーの二千萬円寄附するに及んで国際的なものとなつた。今米人グリーン氏を事務長として三条胡同豫王府に一大医院が建築せられた，この建築と設備はVery bestを標語として企画せられたものであるから，米本国にも稀に見るものであると。現今協和医院の入院費は銅銭二十枚で足るといふから，貧民はその恩恵を受くること厚いものがある。

【基督教青年会】一千九百八十年米人ゲエリー氏が米市に之を開いた。中華基督教会から続いて北すれば左側に赤煉瓦の洋館を見る。それが北京の青年会館であつて，エドウイン，バルゼス両氏が事務を執つてゐる。その経営するところ甚だ多い。財政商業学校，英文夜学校はその教育部であつて，玉突，体操，ボオイスカウトはその運動部である。ボオイスカウトを米人がやつてゐるから，日本人が直ぐ疑つて米国の侵略主義を彼是いふものがある。けれどもボオイスカウトは英人バウエル卿の造つた体育を主旨とするものであつて日本にも多く成団しつゝある。茲には二千名を入るに足るところの講演場があつて，霊的修養の為めに時々講演会を開く。外に読書室，寄宿舎，食堂等があつて便宜に需要に応じてゐる。募集したる会員は二千七百名に達して居る。この会館は米国フイラデルフイアの実業家ウアナメーカーの設立せしものである。

【公理会】青年会より燈市口に到る間にいふべき事業が多い。青年会の南隣煤渣胡同には米国聖経会がある。これは聖書を普及販売する事業で多くの男女をして，路傍でまたは個別で売却せしめてゐる。椿樹胡同にはシユレ氏の建設したる盲唖院があつて不具の児童に教育を授けて居る。椿樹胡同には女子青年会がある。千九百十二年ミスキンヅカザリン氏が創設したもので，翌年ミスセベリンテレサ来つて共に矯風会，青年会を開始した。纏足，衣服改良人身売買に反抗し，畜妾の廃止を提唱してゐる。

燈市口にはアメリカンボルドの本拠がある。公理会の会堂は宏壮なる点に於て，美以美の会堂に劣らない。毎日曜日には三百名から五百名集合する。教会立の学校には育英小学校，貝満女子中学校，聖道女学校があつて，学生総数五百名を有する。燕京大学女校は冬府胡同にあつて，滙文女学校と合し女子大学となつた。女学生七十名，理科文科の二科に分つてゐる。

【華語学校】燈市口南側にあつて，米人ベタス氏は全国青年会名誉主事を兼ねて，校長に当つてゐる。宣教師候補，商人に華語を教へてゐる。学生三十数名ある。

【長老会】燈市口より鼓楼に北行せば，道の南側に長老会がある。矢張日曜日には三百名から五百名のものもが集会する。附属には中学，専門科幼稚園小学等を有する。

【聖公会】英国人の経営するところであつて，宣武門と西単牌楼との中間西側にある。その附属事業は絨線胡同の崇徳書院である。

之で先づ新教の代表的なるものを見物した訳である。この見物の途上，多くの福音堂なるものを見た。それは各教会の出張所であつて，それで伝道を普及して，日曜日には会堂に集るやうになつてゐる。

此外に精華学堂なるものが，西直門より汽車で十数分の処にある。けれども之は耶蘇教会に関係なく，米国の賠償金に依る教育事業であるから，之は茲に上げぬことにした［。］欧米同学会は石達子廟にあつて欧米留学出身者の倶楽部図書館を経営してゐる。

三（ママ）　北京に於ける天主教

一千六百一年セスイツト派のマテオリツチが来京して布教を始めた。乾隆帝の援助もあつて隆盛に向ひ，義和団の変には仏人二名殺害せられた。その賠償金に依つて大に伝道を拡張した。田地，借家を有して豊富たる財源を所有する。

【救世堂】順治門内の東側には最も古い羅馬天主教がある。信徒八千名を有し仏人祭司一名支那人司祭伝道師十数名を有す。法文学堂法漢学堂を附属としてゐる。法文学堂は千九百一年六月の設立で仏人及支那人を教師となしてゐる。学生百五十名ある［。］法漢学堂は九百四年十月の創立で学生七十名ある。救世堂には毎日曜日午前八時，正午の両回集合がある，四百名内外集る。

【天主教東堂】東交民巷にある。信徒八千五百名，宣教師法人一名，小学校を有する。仏人童女は支那病院に献身的看護をなしてゐる。

【天主教西堂】西華門外に在つて，中学校［,］伝道学校［,］法文学校を経営してゐる。信徒一萬二千を有する。

【天主教北堂】東安市場北方にある，英人宣教師の布教せるもので，信徒四千を有する，天主教の事業は実に大である。

【聖心学院】三条胡同にあつて，英仏人司祭教師が教鞭を執つてゐる。

清水安三「北京通信」（『基督教世界』1951号，1921年3月31日）6～7頁。

不鳴不飛の二年　を北京で暮した。漁書の廃物を折々に売出した外には，書斎裡に閉籠つて研究するのみであつた。

日本人信徒の状況　当地に住む日本人は凡そ一千四百，信者と称する者三十数名ある。相等（ママ）の人物がある。小生は過る二年間只日曜日夕の説教を受持つたのみであるが多い時は二十名少ない時は十六七名集つた。小生は事務的伝道訪問伝道を全然やめた。奉天に居る時には説教題を新聞に出したり，葉書で通知する，本を呈する訪問をする，北京に来てからは広告もせねば訪問もせぬ。説教はもう聖書を長たらしく附延せずして話した。教会の組織も拵えず無規則無形の教会を運んだ。それでも何処から聞いてか矢張集会が漸々大きくやるやうだ。

飢饉と活動　北支五省の大旱災に於る小生の活動は更に猛烈であつた［。］小生をして書斎より飛出さしめたるものは正に北支旱災の大飢饉である。小生は多くの日本人の裡に小生程最初から調査しまた研究してゐたものはなからうと思ふ［。］各方面の報告は小生の調査を大分失敬してゐる。西洋人すら多少の材料を小生の調査から取つたのである。

小生は遂に一月廿二日北京を出発して，京漢鉄道，道清鉄道，洛徐線，津浦線を或は馬を駆り或は幌馬車に乗じて，飢饉と其救済の業を視察した。木皮を咬み草葉を噛む実況をキャメラに入れて帰つた。小生は護衛兵も有せず，旅行免許（護照）も携へず単身大旅行をやつた。土匪の蜂起せる所も小生には何のそのであつた。只小生は神は愛なり，人の性善也と信じて歩んだ。止まれ幌馬車，明日の旅路がないぢやなしと，支那田舎家に眠る時に，ふと家郷にある老いたる母を思ふて，豆で北京に帰りたいと神に祈るのであつた。

小生の宿つた飢民の家は幾戸もあるが，或家の如きは父母の裡に四人の子があつた。十六の長男の衣のみを残して一家皆裸で朝夕蒲団のセンベに包れて寝てた。寒いから起きられんのだ。十六の子は一枚の売残した衣を穿つて粥を乞ひに行くのだ。三十町も四十町も歩いて，壺に一杯粟

粥を役所から，もらつて，それを家族に分つのである。小生はシヤツ二，ジャケツ一，三揃背広外套，毛布二枚これ丈け着て寝ても秋から火の気のない家では，一夜眠られなかつた。

このことを書き出せば，もう何千枚の原稿用紙があつても尽きない。小生の調査や観察はどつかの大きな新聞に書かゝる筈である。何ぜ小生が飢饉調査をやつがかといふに，それは始はせめて研究丈けなりとせうといふにあつたが，終には人々に頼れ，強いられて遂々深入したに外ない。何れにもせよ小生は基督が野の鳥を見よと称して，語つたあの真理と飢餓とを思合せて見たり，支那史の研究の上に光を得たり［,］いやもう実に最大なる興味を得たものだ。

一萬五千四百円与へらる　祈るところ応へられるとあるが，小生は調査のみに終らずして，遂に北京に災民児童収容所を北京に設けることになつた。日華実業協会は小生を用ゐて北京朝陽門外太平倉に五百名の災民児童収容所を設立することにした。小生は萬一切を手盛りしてやつてゐる。五百名の裡には一割内外の孤児が居る。孤児は永久に之を養育する筈である。父母ある者は五月又六月にその原籍地へ送り返へす筈である。六月の収麦期まで彼達將に餓えんとするものの保護する凡て栄養不良になつてゐるから之を健康にして，送り帰すまではなかなか骨である。

其経営は各国人の救済事業に比して最も模範的たらんことを期してゐる。小生は彼等の小さき拍手に迎へられてお噺をなしました［。］また幻燈を見せ蓄音機を聞かせる。別に一個の平民小学校も近日開校する筈である。日本学生会の義捐金の端くれも貰つたから，それを用ゐて平民の小学校を設ける。多分四月一日には開校できるであらう。若夫小生に一萬を託して下さるならば北京に校舎兼教会の建物が手に入る。

「神よ小生に一萬円を与へ給へ。借家の校舎では経費が多くて困ります」と祈ること近日切である。小生の留学期はこの二月で終りました。三月より愈々伝道をやります。支那事情も畧々解つた。言葉も先づ達者だ。児童収容所を六月まで経営し，平民学校を永久にやれゝば，小生の仕事も端緒に着く訳である。

今や，小生は支那の土にならむ為に，茫々たる処女地の一端に立つて鍬を大地の土深く最初の一打を打ちおろさんとしてゐます。乞ふ小生の為めに祈りあれ。

清水安三「支那伝道に就きまして」（『伝道月報』第70号，1921年10月20日）4頁。

言を回せば五年前，新緑の初夏六月，海老名，渡瀬，牧野諸先生と共に支那伝道を志して満洲に行きました。彼処で一年有半，半は邦人伝道に勤め乍ら半は支那語を学びました。同じく鐘を突くならば高いところでと思つて北京に留学させて頂きました。

北京に来てから已に三年余，この間は大層私は恵まれました。舞台が大い丈けに支那の事情も，学び易く，語学もめつきり発達しました。約一年は日本語は成る可くつかはないやうに日本文英文共に目に触れなくして，支那語のバイブルを朝夕の友として支那語の研究に向つて邁進しました。折々は人々から支那語狂とまで笑はれもしましたが今から思へばよくやつたと我乍ら健気に回顧致します。

支那語もまあ物になつたと思ふ頃，私共は支那飢饉の救済に一働致しました。山東河南直隷山西の諸省を，調査して，屡々支那稀有の飢饉を報告したものですが，日本内地でも，小学生の幼きものから実業家の富めるもの迄，応分を尽して支那飢饉の為めに捧げました。その総高は一百万円であつたと記臆してゐます。その内約三万円を託されて，飢饉地の児童を救済しました［。］

排日の激しい今日この頃の支那に於て如何に飢ゑばとて，見も知らぬ私共にその愛児を託そうとは思掛けぬ事でありました。

私共は支那の片田舎に於て飢児約八百名を集めました，荷滊車馬匹車の中で，子供と共に北京に来ました。滊車には窓がない上に，彼達には天然痘もあれば，「ひぜん」のものもあり，さてはトラホームそれから南京虫といつたやうな子供と旅する事とて，私は可成りの命掛けを感じました。妻も始めは余に冒険だ生命知らずですと申しましたが，自らも遂にどんな汚ない事でもと共に努めました。十六名の支那人を指揮して，或時は三助となつて私共は，文字通りに子供の足を洗ひ或時は教育を致しました。

六月二十五日，麦の実る頃，凡ての子供を其父母に返へしました。今春の麦作は豊作でしたから，親も子も喜びました。子供の去る頃は讃美歌も良く歌ひました。集めた頃は骨と皮の子もありましたが帰つた時はブリブリ肥えてゐました。襤褸を穿つて来た子が，蒲団と教科書と茶碗箸，バイブル等携へて帰りました。

村々の人達は私共を拝む如くに遇しました。私共は冷汗を流し乍ら，その歓喜を受けました。そうして六月の終には私共は再び閑散な身になりました。丁度三月から六月の四ヶ月間は私共に取つて忘れえぬ喜びの月日でした［。］私共この四ヶ月の仕事で，天国へ行けるとまで喜んだのでした。

飢餓救済で得た経験から自信を以て北京の一隅に支那人の子供の為めに，この五月小さい学校を建設しました。只今は六十名のものが私共二名と支那人教師両名に依つて，小学校の課目を勉強してゐます。私共は小さいこの学校から，仕事を始めて，支那人教育と伝道を始めます。只今では経費は一ヶ月百円位ですが，この三四年はこのスモールスクールで，コツコツやつて，そうして，前途に大きいヴィジョンを抱かうと思つてゐます。これが同志社大学のやうに育つかどうか，は，凡て神様の聖手の力と，長い年月とに依て懸つてゐると存じます。私共は国家を超越し，真の魂との接触に依つて，日支の人達が理解する為めの小さい働をしやうと存じてゐます。どうか私共が支那同胞の為めに，今年からスタートを切つた事を覚えて頂いて，お祈下さいますやうに祈ります。

創業の難を悩み乍ら，泉山成瀬仁蔵先生，若王子山頭の二つの墓を訪ふて私は地に伏してその青い草を額寄せて遼遠なる前途の為め祈りました。私のこの重い心を理解して下さる方は，デビス先生であり，新島先生であると思ひました。折柄，秋風若王子山上の松林を襲ふて，松籟身に迫つて，暫し私は去り難い心に泣きました。眼を遠く放てば赤煉瓦の同志社大学は御苑の遙か向ふに眺められました。噫私も支那に帰つて，支那の土になりませうとは私の祈でありました。

清水安三「山東問題の解決方針」（『表現』第1巻第2号，1921年12月1日）119～121頁。

一

民衆が群盲であらうとも，多数の声に聞くことは，大切なことであると思ふ。北京政府に実力がない為めに，牛に牽かれて善光寺詣だと言ふ者があるが，假令どんなに強力な政府があつても，矢張民衆の輿論に拠つて，方針を定むべきである。わけて南北相別れ，議会が潰れてゐる今日に於て，外交総長が南方，北方双方に聞える民論を吟味し，調査してその主張に動かされて方針を定めることは最も怜悧な，また最も賞讃すべきことではあるまいか。

民衆がどんなに迂愚であつても，また支那の為めに惜むべき主張を為しても，それを尊重することは最も近代的なやり方ではないか。然るに支那には強固な政府，実力ある政治家がないから，群盲に牽きづられて，直接交渉をやりきらぬ等と批判する者が，日本には多いやうだが，私達は図抜けた英傑に依つて，政治と外交が運ばれる時代が支那に於ても去つたことを支那の為めに視ざるを得ない。

で，日本が山東問題否所謂支那問題は支那民衆の輿論を見て解決するが良いと思ふ。先年米人から煙酒借款の為めに来支したクレマンソー氏が，支那学生にいつた。「米国は支那民衆の感情を害してまで，金を借（ママ）さんでもよい」と。支那民衆が華府会議に於て山東問題を解決したいと頑張るならば，それをそうしたらよいではないか。そうすることが最も賢いやり方だと思ふ。体面だの体裁だのそんなことはどうでもよい。支那民衆を味方として対支政策を創造することが，日本の世界に雄々しく立つ為めに最も必要なことであるのだ。

二

支那民衆に聞いて，対支政策を決定することは，何も日本人出資の宣伝機関を拵へることではない。支那民論を指導し勝手に切盛し，育上げたい為めに，宣伝機関を設けやうとする傾向がある。英文，又は漢文の新聞を乱設して，白々しくも我国等と称しつゝ支那を論ずる者がある。けれどもそうした日本御用の新聞を造ることが支那の為めに幸福なことではない。各国競うてやつてゐるが，日本は率先して之を廃するがよい。試みに東京に於けるどれかの新聞がアメリカに買収せられたとせば，日本人中誰がその新聞のいふことを信ずる人あらう。よし読んでも逆読みすることを忘れはせまい。

支那の輿論は学生にあるといふので，学校を建設してはどうかといふ人もある。けれどもそれ位馬鹿々々しい話はあるまい。腰の抜けた様な青年を集めたつて輿論は醸しはせぬ。現に留日現支那学生は排日輿論の急先鋒ではないか。民論は買収できるものでもなく，勝手に製作できるものではない。

支那民論を対支政策の根柢とする為めには思切つた正義の上に，人道の上に立たねばならぬ。国際道徳としては曾て実現しなかつた純一なる態度に徹しなければ，支那民衆を味方とすることは困難である。プロパガンダで胡魔（ママ）化すことも，有の儘を吹聴することも不用である。日本は支那を侵略するかせないか何れかに徹底して，支那と世界に敵対するか，順応するか二つの一を選ぶべきである。どうせ世界を敵と為し得る度胸は無いのであるから，無我愛を以て対支方針と為すべきである。

新しく来た駐支米国公使は，米支同時に宣言した。「米国は支那に対して何等の要求を持たぬ」と。この覚悟あつて，言ふ丈けでは駄目であるが，その通にやつて居れば，支那民衆は必ず米国の身方であり得る。日支親善の為めには変つた方針，文化政策だの何だのいふものは一切不用だ。只支那民衆の声に聞いて，正道を歩めばそれで沢山である。

三

支那人は支那のことを世界に依つて解決して貰ひたい要求がある。世界の凡ての問題は，支那に限らず凡ての世界の会議に依つて決定すべきであると考へてる者が多い。支那思想界は世界の思潮に少しも遅れてはゐない。夫を以狄制夷の旧式外交であるかの如く思ふとは大いなる謬であらねばならぬ。

支那があらゆる問題を，国際会議に持出し度いと思ふことは，インターナショナリズムの立場から考へて，決して悪い考ではあるまい。支那が今日他国の支配を受けてゐないのは国際的関係にも依つてゐるのであるから，今後とも一切の事件を国際会議で決定させれば，面倒もなくまたどれかの一国が私利を貪ることもあるまいと考へる。支那としてはそう考へるのも無理ないことである。

日本人が何を論じ，何とはいふとも，その腹底は黒い。英米弱くば，支那を取り度いのである。今日では取れぬから，時勢が許さぬと諦めてゐるに外ない。それを見抜く支那が成可く国際会議に提出したいのは，当前ではないか。武者小路実篤以外の日本人の口から出る支那論は皆うそだと，高一涵が言つてゐた。私達とてもそれに同意せざるを得ない。無我愛に徹しえぬものは，日支親善を語る権利がないのである。

山東問題を解決する方針は種々あらう。けれども支那民衆の声に聞き，世界と共に之を解決し，無我愛を以て之が根本方針とすべきである。

日本の大陸殖民を承認すべきである等，と米国で論ぜられてゐる。日本人は労働者として，商人として，飽迄も自由競争に依て，支那に入込むべきである。国家を背景として殖民する如きは男らしくない。支那人を自由競争に依つて圧倒し得ることが出来ねば，日本民族は繁殖する資格がないのである。支那は門戸開放せられてある。支那人は同等の位置に立つて競争すべく待つてゐる。（北京にて）

（了）

【附記】誤記等に気付かれた方々，あるいは本稿で紹介した史料の現物（複写物）を閲覧したい利用者諸賢は，編者まで連絡されたい。（E-mail: kanemaru@ec.ritsumei.ac.jp）